京都府公立大学法人京都府立医科大学

2025 年度

看護実践キャリア開発センター

事業報告書

Kyoto Prefectural University of Medicine Nursing Practice Career Development Center

発刊にあたり

平素は京都府立医科大学看護実践キャリア開発センターへの格別のご高配を賜り、心より感謝申し上げます。

看護実践キャリア開発センターは今年で開設 17 年目となり、第 4 期に入りました。第 3 期最終評価で明らかになった、事業の焦点化や学習環境の整備、実践と評価の整合性などの課題解決に向けて、今年度もジェネラリストレベル以上の看護職を対象とした教育プログラム等を精力的に展開しています。

2025 年度は、文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（社会的な要請に対応できる看護師の養成）」である「Project KPUM 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト」が 2 年目を迎えました。2024 年度は附属病院の看護師を、2025 年度・2026 年度は京都府内の看護師を対象に、半年間の教育プログラムを実施します。特定行為研修で用いる e-learning、認定看護師や専門看護師による講義と演習、4 週間の On the Job Training、施設見学実習などによる充実したプログラムが好評です。

近年、キャリアセンター事業においては、特定行為研修や Project KPUM が占める割合が大きくなっていますが、看護倫理ベーシック研修や看護職キャリア交流会、看護専門分野別講座、看護研究支援研修など、これまで広く公開してきた事業も継続しています。様々な事業を通して、看護職の皆さんのキャリア形成支援に寄与するセンターであるべく、当センター関係者一同、引き続き尽力してまいります。地域の皆様には、今後ともご支援・ご協力を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和 8 年 3 月吉日

京都府公立大学法人　京都府立医科大学
看護実践キャリア開発センター
センター長　毛利貴子

目　次

発刊にあたり

Ⅰ．体制

１．事業実施体制 ･････････････ 1

２．会議日程 ･････････････ 2

Ⅱ．部門報告

１．キャリアパス構築部門 ･････････････ 3

２．教育プログラム開発・運営部門

１）看護学科キャリア教育 ･････････････ 5

２）看護倫理ベーシック ･････････････ 6

３）臨地実習指導に携わる看護師のための支援研修 ･････････････9

４）看護専門分野別講座 ･････････････15

がん看護、手術看護、心不全看護、皮膚・排泄ケア、在宅看護
認知症看護、糖尿病看護、摂食嚥下障害看護、老年看護

５）看護研究支援研修 ･････････････18

６）ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（社会的な要請に対応できる看護師の養成）

Project KPUM 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト ･････････････25

３．教育・研究支援連携推進部門

１）e-learning ･････････････27

・看護学科

・附属病院

・北部医療センター

２）看護職キャリア交流会 ･････････････30

４．評価プロジェクト部門 ･････････････31

Ⅲ．委託事業

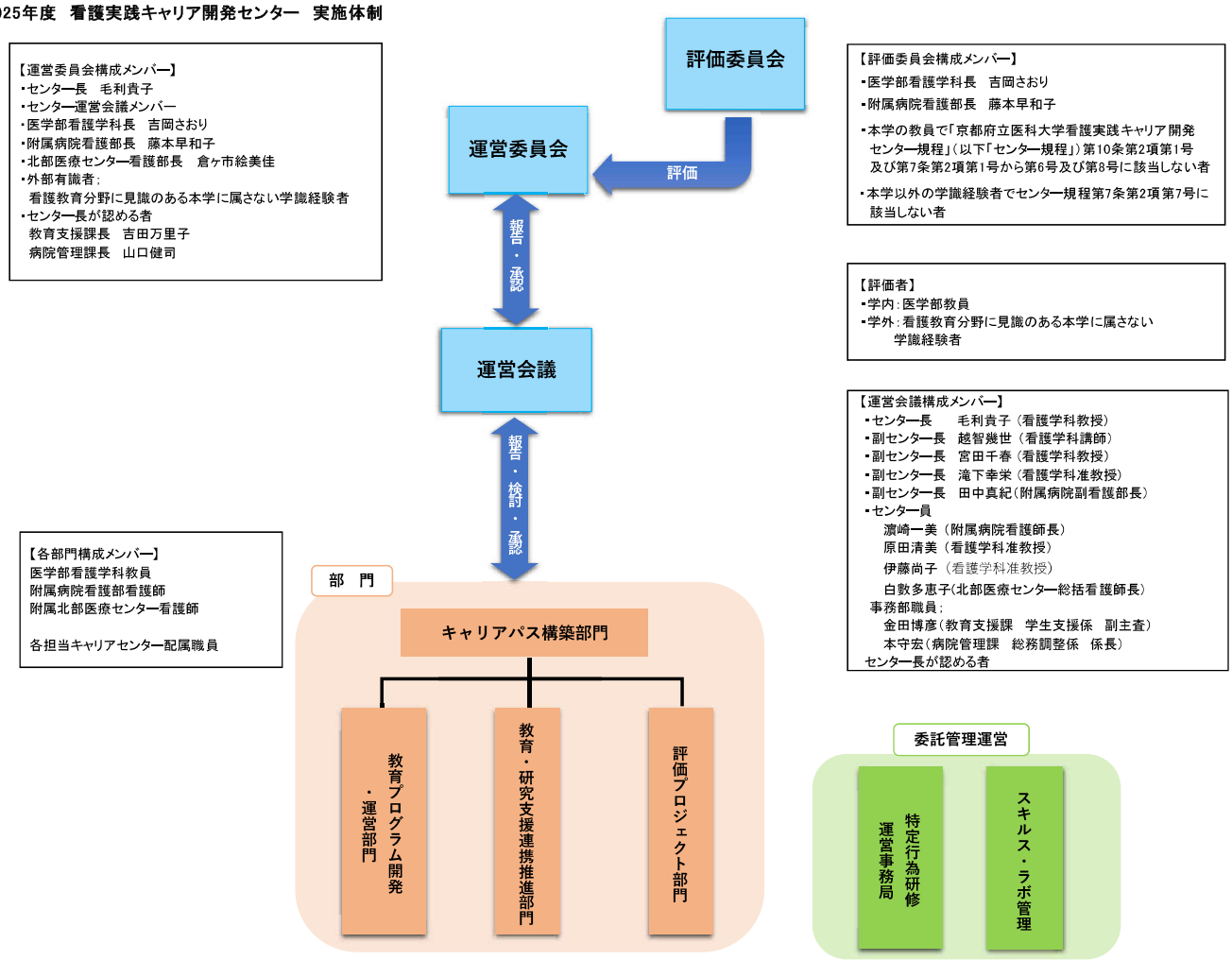
１．特定行為研修 ･････････････33

２．スキルス・ラボ活用 ･････････････39

Ⅰ.体制

1．事業実施体制

2025年度　看護実践キャリア開発センター　実施体制



部門	部門の内容・役割	事業名・活動内容
キャリアパス構築	・キャリアパスの全体構想、および、キャリアセンターの将来構想の検討 ・看護基礎教育～キャリア開発教育を通じた看護学科、附属病院看護部、北部医療センター看護部の交流の促進	キャリアパス全体構想
		キャリアセンター将来構想
		看護学科・看護部の教育評価の共有のための交流会
教育プログラム開発・運営	卒業生、京都府の看護職を対象とした教育プログラムの開発・企画運営 ・既存の教育プログラムの運用とバージョンアップ ・新しい教育プログラムの開発 ・外部に公開されている院内研修の公開講義の調整	看護学科キャリア教育　(1～4 年生)
		看護倫理ベーシック研修
		臨地実習指導に携わる看護師のための支援研修
		看護専門分野別講座
		看護研究支援研修
		ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業　社会的な要請に対応できる看護師の養成 Project KPUM　重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト
		with コロナ新時代の潜在保健師・看護師リカレント教育 (2024 年度は休止)
		緩和ケアを推進する看護師養成プログラム(2024 年度は休止)
教育・研究支援・連携推進	看護学科と附属病院看護部、北部医療センター看護部間で相互に講師を派遣し、看護基礎教育、大学院教育、院内教育の質の向上、連携強化を図る。	e-learning　整備・活用
		看護職キャリア交流会（旧　看護研究交流会）
		研究支援の調整　(研究サポート)
評価プロジェクト	キャリアセンターの設置の目的に照らしたキャリアセンター事業の評価	各プログラムの成果評価
		評価委員会の開催
		事業全体の評価

特定行為研修運営事務局	特定行為研修の運営に関する手続き業務、教育課程の申請・運用 （受講生の教育支援（e-learning、スクーリング、確認試験、OSCE、実習)、各種連携調整、管理委員会の運営）	特定行為研修教育課程 (外科術後病棟管理領域・術中麻酔管理領域・集中治療領域)
スキルスラボ	スキルスラボの管理、整備	スキルスラボ管理、整備

２．会議日程

【運営委員会】

2025 年度	日程	議題
第１回	2025 年 10 月 15 日（水） 場所：看護学舎　大講義室 形式：Zoom（ハイブリッド開催）	・センターの実施体制、予算報告、予算執行案報告 ・各事業活動報告等 ・Project KPUM 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト報告
第２回	2026 年 3 月 4 日（水） 場所：看護学舎大講義室 形式：Zoom（ハイブリッド開催）	・法人第 3 期中期計画 令和 7 年度計画評価、令和 8 年度計画案 ・各事業活動報告　等

【運営会議】

2025 年度	日程	議題
第１回	2025 年 4 月 25 日（金） 形式：Zoom	・2025 年度実施体制 ・2024 年度収支報告、2025 年度予算執行案 ・2025 年度研修事業、評価プロジェクト
第２回	2025 年 5 月 20 日（火） 形式：Zoom	・各研修活動報告
第３回	2025 年 6 月 24 日（火） 形式：Zoom	・各研修活動報告
第４回	2025 年 7 月 29 日（火） 形式：Zoom	・Project KPUM 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト進捗状況 ・各研修活動報告
第５回	2025 年 9 月 19 日（金） 形式：Zoom	・第１回センター運営委員会次第案 ・各研修活動報告
第６回	2025 年 11 月 17 日（月） 形式：Zoom	・各研修活動報告
第７回	2025 年 12 月 24 日（水） 形式：Zoom	・各研修活動報告
第８回	2026 年 1 月 26 日（月） 形式：Zoom	・第２回センター運営委員会次第案 ・各研修活動報告
第９回	2026 年 3 月 26 日（木） 形式：Zoom	・次年度事業計画 ・各研修活動報告

Ⅱ.部門報告

1.キャリアパス構築部門

１．京都府立医科大学看護実践キャリア開発センター（以下キャリアセンター）について

１）目的

社会のニーズに対応した看護実践能力の向上を目指した教育支援、看護師の生涯を通じたキャリア形成支援のために、地域に開かれた教育プログラムの開発、教育指導者の養成、教育環境の充実を図り、看護職の人材育成に寄与すること。

２）事業の対象

日本看護協会クリニカルラダーⅢ以上のジェネラリストレベル以上の看護師。

３）事業部門と活動内容（図１）

キャリアパス構築、教育プログラム開発・運営、教育・研究支援連携推進、評価プロジェクトの４部門、特定行為研修運営事務局とスキルスラボの委託事業から成る。

キャリアセンターにおける４つの部門と活動内容

(1) キャリアパス構築部門

(2) 教育プログラム開発・運営部門

・看護学科キャリア教育（１～4 年生）

・看護倫理ベーシック研修

・臨地実習指導に携わる看護師のための支援研修

・看護専門分野別講座

・看護研究支援研修

・ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（社会的な要請に対応できる看護師の養成）

・with コロナ新時代の潜在保健師・看護師リカレント教育（2023 年度以降休止）

・緩和ケアを推進する看護師養成（2024 年度以降休止）

(3)教育・研究支援連携推進部門

・e-learning 整備・活用　・看護職キャリア交流会　・研究支援の調整

(4)評価プロジェクト部門

委託事業

・特定行為研修運営事務局

・スキルスラボ管理

図１．看護実践キャリア開発センターにおける各部門の概要

２．キャリアパス構築部門

キャリアパス構築部門は、キャリアパスの全体構想およびキャリアセンター将来構想を検討する部門である。当センターがめざす看護職のキャリア形成支援（図２）に沿って、事業を展開している。

2025 年度、「看護倫理ベーシック」では、「組織の倫理的課題に向き合おう」をテーマに講演とワークショップを開催し、５名が参加した。医療・介護組織における倫理課題について、講義とワークショップを行い、ケーススタディから自施設の課題とその解決に向けてディスカッションを行った。「看護職キャリア交流会」では、「看護サービスの『質』管理」をテーマに企画をしたが、本学附属病院が関係する学会と日時が重複したため参加希望者が少なく、今年度の開催は見送りとした。

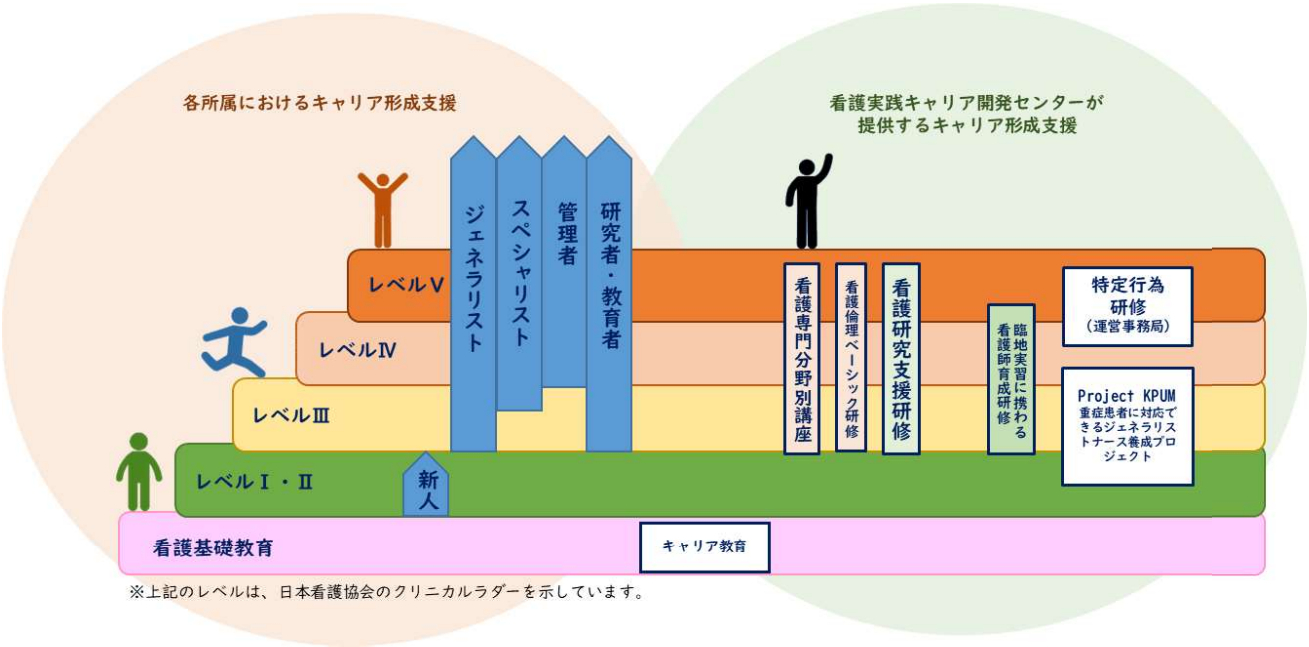


図２．看護師のキャリアパスと看護実践キャリア開発センターが展開するキャリア形成支援

看護専門分野別講座では、33 講座が開講し、院内外あわせて 2729 名がオンデマンド動画を視聴した。超高齢社会や地域包括ケアシステムの理解を深めるため、今年度より、老年看護学領域や在宅看護学領域の講座を開講したことは特筆すべき変更点である。「臨地実習指導に携わる看護師のための支援研修」では、昨年度より受講生枠を倍増し、17 名の附属病院看護師が講義・臨地実習指導シャドーイングに参加した。看護基礎教育における臨地実習の意義や指導者の役割、学生の特徴を踏まえた指導のあり方について学んだ。「看護研究支援研修」は、有料化して 2 年目となるが、今年も 14 名が受講した。今年度は「指導的立場にある」看護師を対象とし、初歩的な内容から講義・演習内容を構成したが、受講生の理解度やパソコン操作スキルにはばらつきがあり、到達度のレベルを均一化することが困難であった。

３．キャリアセンターの今後に向けて

キャリアセンターは、2020 年度より一人前看護師教育からジェネラリスト以上を対象としたキャリアパス形成支援に方向性を転換し、スペシャリスト、管理者、教育・研究者へのキャリア形成を見据えた教育事業、個々のニーズに沿った細かいサポートを展開している。2025 年度は、令和 6 年度文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」2 年目となり、京都府内のジェネラリストナースに対象を広げて Project KPUM を展開した。あわせて、特定行為研修では 2024 年度集中治療領域コースを、2025 年度救急領域コースを開講した。京都府内で急性期医療に従事する看護師のレベルアップと施設間連携を目指し、キャリア形成支援につなげている。今後も、看護倫理や看護研究、専門分野別講座などの講座とともに、京都府内の看護職のキャリア形成を支援するセンターとして一層地域に貢献できるよう励んでいきたい。

報告者：看護実践キャリア開発センター

センター長　毛利貴子

2. 教育プログラム、開発・運営部門

1）看護学科「キャリア教育」

はじめに

看護学科「キャリア教育」は 2009 年「循環型キャリア教育」の一貫として位置づけられ、1 年生から段階的に 4 年生まで習得できる様にプログラムされている。看護職としての将来像が描けるように教育内容を精選し構成した計画となっている。

I.　キャリア教育のねらい

看護学科の学生が，①社会や職業社会への「移行期」にあたり、自らの将来・人生をしっかりと設計できるキャリア設計能力②職業生活の中で何を実現したいのか、職業に対してどういう意味づけを持つのかというキャリア・職業観の育成③自分はどのような道を歩むのかというキャリア・職業の選択力④専門職業人として何をなすべきなのかという職業専門能力などを明確にする。

生涯教育の課題をふまえて身につける能力の育成

① 夢や目標を育む（あるべき姿から生き方を考える思考力）
② 職業観を育む（職業人としての自立力）
③ 自ら考え学ぶ力を育む（個人としての学習と自立する能力）
④ 自己表現力を育む（論理的思考力やコミュニケーション能力）
⑤ 専門職業人として協調して働くための能力を育む（強調する能力）

II.　学生に対するキャリア教育

	対象学生	日時	担当	内容		
1	1 年生 「総合講義」	5 月 23 日（金） 2.3 限目	看護倫理・ 看護管理学領域 宮田	キャリア開発論 自己分析 キャリアデザイン作成	講義 演習 演習	社会人基礎力と専門職化組織におけるキャリア開発 自己理解 自己の課題の明確化と目標設定
2	2 年生 （地域看護学）	9 月 30 日（火） 5 限目	地域看護学領域 教員・卒業生	保健師の仕事	講義 交流	保健師の仕事と教育内容 保健師のやりがい
3	2 年生 （助産学）	9 月 24 日（水） 5 限目	助産看護学領域 教員・卒業生	助産師の仕事	講義 交流	助産師の仕事と教育内容 助産師のやりがい
4	3 年生 （3 年生担任 教授・副担任）	9 月 26 日（金）	看護部長 先輩看護師	病院で働くこと 部署の選び方 新人としての体験 看護師の喜び	講義 交流	病院の紹介 就職しての看護師の体験
	3 年生	9 月 26 日（金）	看護倫理・ 看護管理学領域 宮田	看護職のキャリア開発 就職活動について 自己分析：看護就業レディネス尺度 キャリアデザイン作成	講義 演習	ジェネラリスト・スペシャリストの紹介 志望動機などの書き方 自己課題の明確化 目標達成の評価と課題の再設定
5	4 年生	4 月 4 日（金） 13：00~16：00 大講義室	看護倫理・ 看護管理学領域 宮田	看護職のキャリア開発 就職活動について 自己分析：看護就業レディネス尺度	講義 演習	ジェネラリスト・スペシャリストのキャリアの紹介 志望動機などの書き方 自己の課題の明確化 課題の設定
6	4 年生	4 月 4 日（金） 9：00~12：00 大講義室	4 年生担任 看護部長 先輩看護師	病院で働くこと 部署の選び方 新人としての体験 看護師の喜び	講義	病院の紹介 就職しての看護師の体験
7	インターンシップ	希望時	学生が連絡	病院の看護ケア	体験 見学	希望病棟での見学・体験
8	個別指導と相談	希望時	担任・副担任 ゼミ担当教員	相談	相談	就職・キャリア相談 学習支援・課外活動支援

III. 評価

キャリア教育の枠組みを構築し、シームレスなキャリア支援を実施した。とくに、1 年生から看護職としてのキャリア選択に関する情報を提供し、早期から自己のキャリアを見据えた学習目標の設定につなげた。領域別実習開始前の 3 年生への附属病院や先輩看護師の講義は、臨床での看護師の業務のイメージの具体化につながり、将来の自身の看護師像を描くことに有益であった。以上のことから、看護師としての職業的社会化を促進につながるキャリア教育が実施できたと考える。

京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　宮田千春

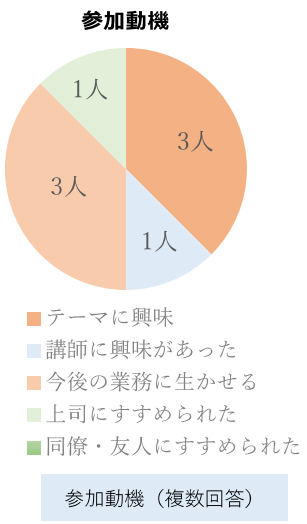
2）看護倫理ベーシック

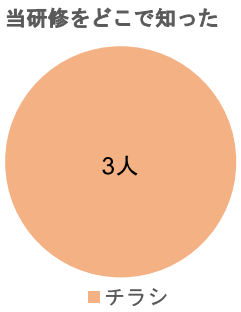
1．テ　ー　マ　：「組織の倫理的課題に向き合おう」
2．対　　象　：JNA ラダーすべての看護師
3．開催日時　：2025 年 12 月 9 日（火）　13：00～
4．会　　場　：京都府立医科大学医学部看護学学舎　第 1 講義室
5．タイムスケジュール

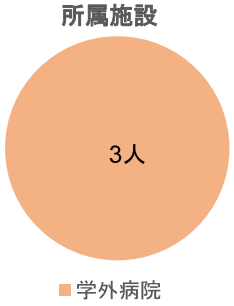
13:00～14:00	【講演】「組織の倫理的課題に向き合おう」 京都府立医科大学　大学院保健看護学研究科 看護倫理・看護管理学　教授　　宮田千春
14:10～15:30	【ワークショップ】「ケーススタディ（組織の倫理的課題）について意見交換」 14:10～14:30 個人ワーク「組織における倫理的課題事例」について整理してみよう ①誰と誰の間に生じたか ②なぜ倫理的に問題であると考えたのか （侵害されている倫理的原則・価値観の対立） 14:30～15:30 グループワーク ①事例の共有 ②どのような倫理原則または道徳的欲求が対立していたのか ③それぞれの立場で何をすべきか・何ができるか
15:30~	閉会挨拶　：京都府立医科大学　医学部看護学科　老年・在宅看護学領域　教授　毛利貴子

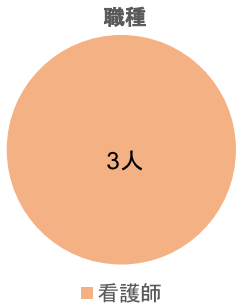
6．参 加 状 況：参加者：5 名（5 名とも他施設）　講演 5 名　ワークショップ 5 名
7．アンケート結果：回答者：3 名（回答率　60%）　職種　看護師 3 人（100%）

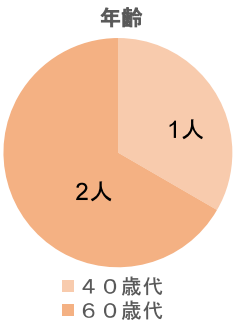
【受講者について】





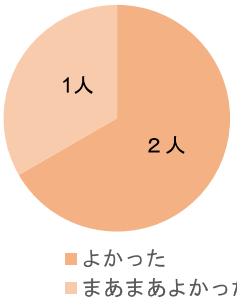




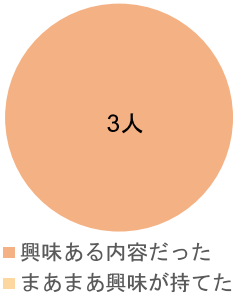


【講演について】

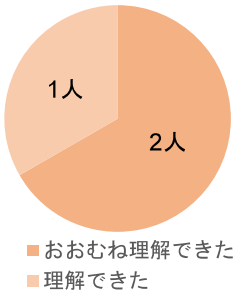
講演について



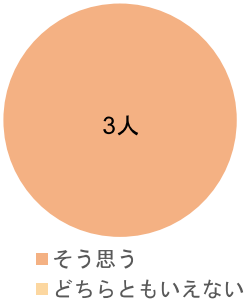
興味ある内容だったか



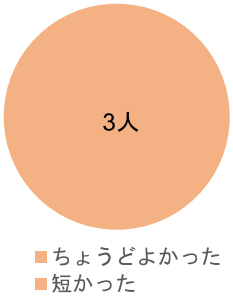
講演内容は理解できたか



今後に活かせる内容か

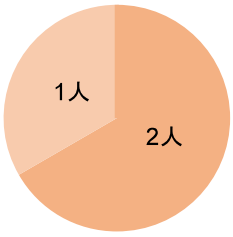


講演時間の長さについて

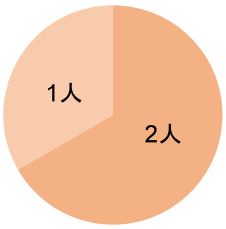


【ワークショップについて】

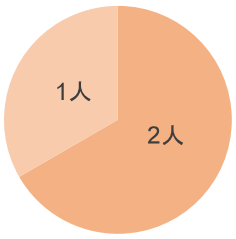
ワークショップのテーマについて



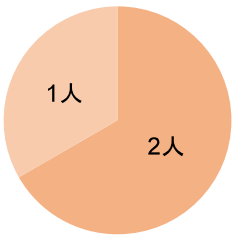
興味ある内容だったか



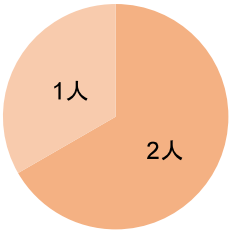
内容は理解できたか



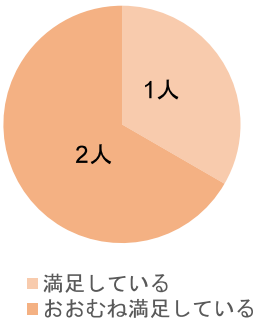
今後に活かせる内容か



時間の長さについて



【看護倫理ベーシック全体についての総合評価】



自由記載

- 日頃モヤモヤしていた事を共有でき、現場での倫理教育の活路を見出すことができました。ありがとうございました。
- 参加者がもう少し多い方が、多様な事例や意見が共有できたのではないかと思いました。

今年度の課題と今後の展望

- もっと多くの参加者による活発なディスカッションができる方が望ましい。

  → 看護職の倫理に関する研修ニーズの把握・日程を休日にする。

  Web 講義とするなどを検討する。

報告者　京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　宮田千春

3）臨地実習指導に携わる看護師のための支援研修

Ⅰ．研修の概要

対象者：① JNA クリニカルラダーレベルⅢ以上の看護師
(附属病院：ジェネラリストⅠ以上、キャリア支援委員会経験者)
② 病棟において臨地実習指導者としての活躍が期待できる看護師

目的：看護基礎教育における臨地実習の意義、目的、実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導を行うために必要な知識・技術を学ぶ。

目標：① 臨地実習指導の基盤となる看護基礎教育の基本的知識を習得する。
② 臨地実習指導者の役割、コンピテンシーについて理解する。
③ 対象となる学生像を踏まえた上で、効果的な指導方法について学習する。
④ 自身の臨地実習指導のレディネス、コンピテンシー、課題について検討し、自身の実習指導者像を具体化する。

学習方法：講義、演習（グループワーク）

Ⅱ．研修の実際

学習内容・開催時期：次ページ表Ⅰ参照

表１ 研修の日程と内容

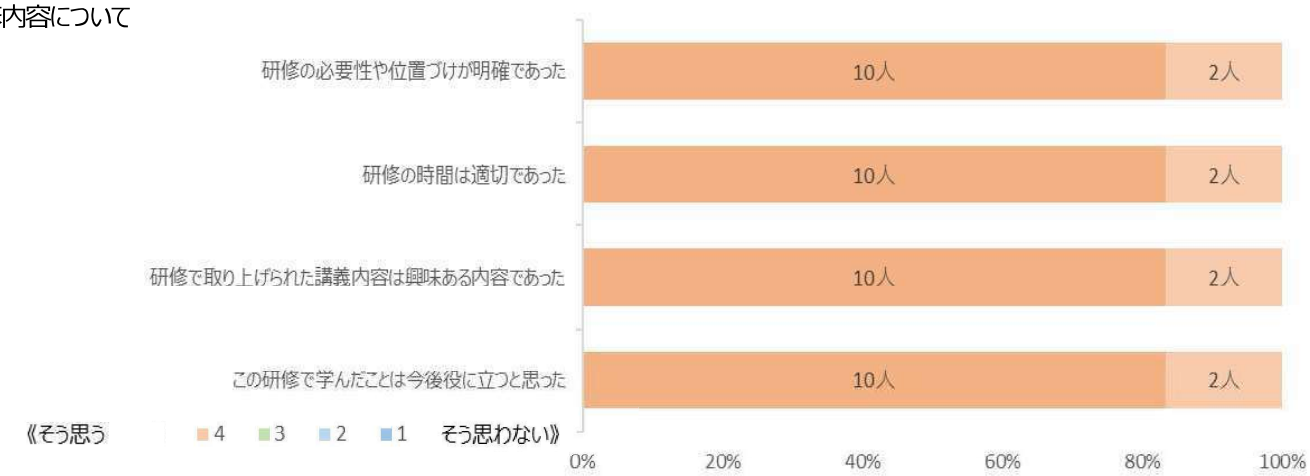
開催日	時間	内容	講師	会場
9月25日 （木）	9:00 ～ 9:05	開会のあいさつ 研修会の概要説明	センター長 看護学科 教授 毛利　貴子	看護学舎 第８講義室
	9:05 ～ 10:05	実習指導の概要 　臨地実習における実習指導者の役割 　臨地実習指導と教員の連携 　実習指導の過程・方法（教員との協働）	看護学科長 看護学科 教授 吉岡 さおり	
	10:15 ～ 11:15	看護基礎教育の現状 　新指定規則におけるカリキュラムの概要 　実習の位置づけ	副センター長 看護学科 准教授 滝下 幸栄	
	11:15 ～ 12:15	効果的な臨地実習を目指して 　教育とは 　実習指導者と教員の役割分担	副センター長 看護学科 教授 宮田　千春	
	13:30 ～ 15:00	講演 実習指導の対象となる学生の特徴（世代論など）	愛媛大学 内藤　知佐子	Zoom
11月7日 （金）	8:00- 11:00	臨地実習指導教員へのシャドーイング（前半）	看護学科教員	
	11:00- 12:00	グループワーク 自身の臨地実習指導のレディネス、コンピテンシー、課題について検討し、課題解決に向けた具体的目標を設定する。	受講生 看護部教育担当	
11月28日 （金）	8:00- 11:00	臨地実習指導教員へのシャドーイング（後半）	看護学科教員	
	11:00- 12:00	グループワーク 自身の臨地実習指導のレディネス、コンピテンシー、課題について検討し、課題解決に向けた具体的目標を設定する。	受講生 看護部教育担当	

Ⅲ．研修における受講生の評価

第１回：看護基礎教育の現状、実習指導の概要、実習指導の対象となる学生の特徴についての講義

・受講者 16 名、アンケート回答者 12 名（回収率 75%）

・研修内容について



・自由記述：○どうしても自分が教わってきた環境と比較をしてしまい、自分のやり方を通していました。教えているばかりでは考えない子になってしまうと思っていましたが、今回世代の考え方等を学び自分が変わらないといけないこと、その世代に合った教え方をしないといけないことを学びました。

○学生の意見に対する捉え方や対応について改めて考えさせられました。

○宮田先生の講義で、資料にないスライドがいくつかあったので、後日データや紙面で配布していただくことは可能でしょうか。

○発表させていただいた通り、有意義な時間になりました。

○何でも話せる環境下で、学生に学習できる機会を提供できるよう指導者が変わる必要があると学びました。現在、病棟では学生指導はないと聞いているので、ベーシックの教育に参考にできたらと思っていますが、程良い緊張感を持ちつつ良い看護を提供できるようにはどうしたら良いか気になりました。

○実習生はやはり世代によって関わり方や捉え方が違うという事を学ぶ事が出来ました。

○学生さんへの関わり方が分かりませんでしたが、具体的な声かけの例やどういう年代であるのかなど具体的に分かって今後に活かせそうな内容で勉強になりました。

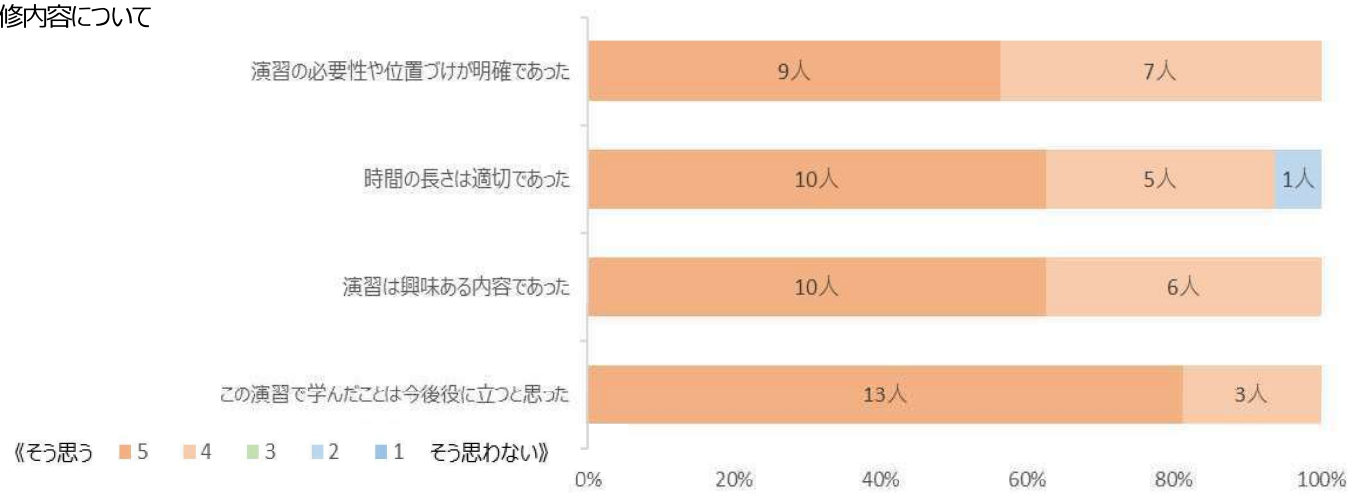
○臨床現場では慢性的な人手不足が現実ですが、本研修での学生指導の方法が心理的にも時間的にも余裕がない状況で、実行するのが難しいと思いますが、どうしたら良いのでしょうか。また、学生側の個別性や特性に合わせた指導を行う中で、反応がない、意欲の感じられない相手への指導は、指導者側もある程度のストレス、負担を感じます。指導者側の心理的安全性はどう守られるのでしょうか。学生時代に適性があるかクエスチョンな学生でもなんとか国家試験に受かって看護師になるように教育をしても、臨床にでてから適応できずに離職になることも少なからず関係はあるのではないかと思うこともあります。こういった中で看護の質はどのように保たれていくのかと考えさせられました。

○今後、臨地実習指導を実施するにあたり、とても参考になる内容であり、有意義な研修会でした。

第２回：実習指導シャドーイングとグループワーク

・受講者 16 名、アンケート回答者 16 名（回収率 100%）

・研修内容について



・自由記述：○充実した研修であった。実習のシャドーイングに関しては、午前中だけでなく午後も見て、1 日の終了時に先生がどのような指導をされているのかも見学してみたかったです

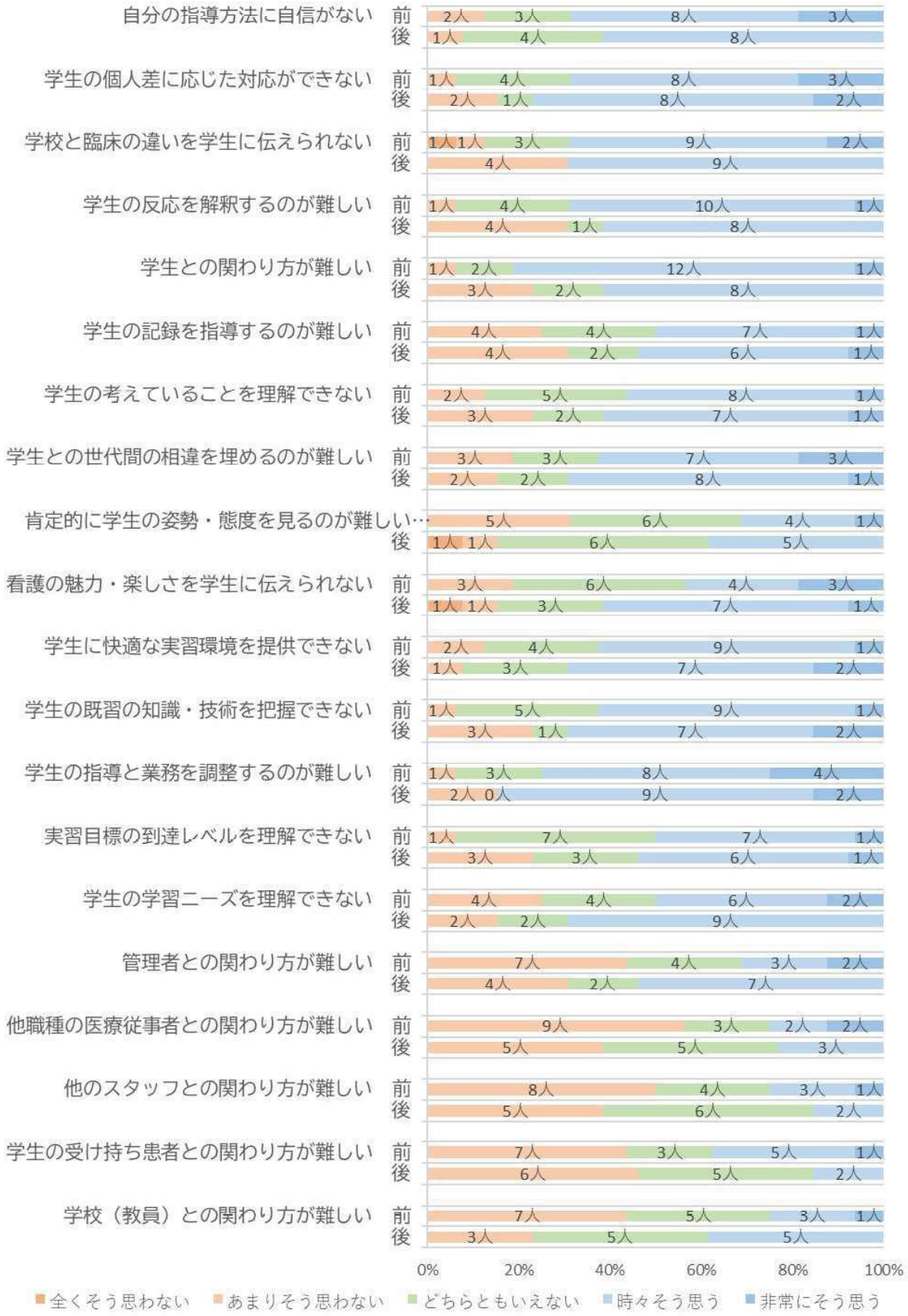
○臨地実習の現場を実際に見て、自部署では業務に追われ気づけなかった関わり方や、担当教員の動きが見えてとても勉強になりました。実習シャドーイングは週始めの方が教員の関わりが見えやすいかなと思いました。時間が可能であれば、丸一日実習終了までシャドーイングし、振り返りをどのようにしているのかも参加出来たら良いなと思いました。

○半日ではなく、その日の実習が終わるまでシャドーウィングしたかったです。

その理由としては、一日を通して、学生さんがどのように変化するのかを見たかったからです。

実習指導上の困難感：

図１．実習指導上の困難感研修前後の比較（人数）



Ⅳ．今後の課題

当研修は昨年度まで全４回コースで実施していたが、より多くの受講生の参加を可能にするために、今年度より全２回コースで実施することとなった。受講生数が昨年度９名から今年度 16 名と増加したため、実習指導シャドーイングは２回に分けて実施した。グループワークでの発表内容や研修終了後のレポート内容からは、昨年度と同様の学びが得られたことが伺えた。次年度も同じ内容で研修を行う予定であるが、受講前後のアンケート結果について、自由記述と困難感尺度得点とを照らし合わせて分析するようにしたい。

報告者：京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　毛利貴子

4)看護専門分野別講座

I. 概要

附属病院の CN/CNS（専門看護師/認定看護師）などのスペシャリスト、医師、看護学科教員による講義を、時間や場所にとらわれずに受講できるオンデマンド形式で提供することで、個別のペースで学習を進め、継続的な学習を支援する。

II. 目的

看護師のキャリア支援として専門性の高い講義を、府内および附属病院関連の医療施設に提供することにより、地域における看護実践能力の質の向上を目指す。また、スペシャリストの教育能力の向上をはかる機会とする。

III. 方法

配信期間:原則として 1 か月間とするが、発信者の希望により延長可能とする。

配信頻度:毎月 2～5 講座。

配信方法:オンライン経由。学内の Google Workspace を使用。附属病院内は電子カルテコンテンツ Ub point でも配信。

IV. 結果

① 今年度は 9 分野 33 講座の配信を行った。うち 1 分野 2 講座は、附属病院内限定の配信であった。

② 在宅看護分野 2 講座、がん看護分野 1 講座・老年看護分野 1 講座の 4 講座を新たに追加した。

③ のべ受講者数は 2729 名で、前年度の 2023 名から 706 名増加した（前年比 134%）（表１）。
受講者の内訳は、附属病院 827 名（前年度 703 名）、北部医療センター109 名（44 名）、学外 1793 名（1591 名）であり、学外医療施設からの視聴が全体の 65%を占めていた（図１）。院内では、Ub ポイントの受講者が 20%増加した。

④ 昨年度のアンケート結果を踏まえ、一部の講座で講義時間の調整や視聴期間の延長、タイトルの明確化などの工夫を行い、前年度に比して 10～50%受講者数が増加している。

⑤ 受講者の年代としては 40 歳以上が 70%を占め、若年層の参加は少ない構成となった（図２）。

⑥ 各講義では視聴後アンケートを実施し、満足度を 5 段階で総合評価している。最高点の 5 点が 51%と最も多く、次いで 4 点が 36%と高い評価が得られている（図 3）。

⑦ アンケートの回答率が平均 51.4%と低く、回収率 50%以下である講座が半数を占める。

⑧ 新たに Instagram での広報を追加したが、効果は限定的であった。

V. 今年度の課題と今後の展望

受講者数は講義によって差はあるものの、概ね増加傾向にあった。アンケート結果を踏まえて一部講義で視聴期間の延長や新コンテンツの追加などを行ったことが、視聴者数の増加に寄与したと考えられる。一方で、若年層への参加促進を目的として Instagram を用いた広報も実施したが、効果は限定的であり今後の広報についても検討する必要がある。

また、臨床現場の多忙さや若い世代のニーズを踏まえると、より気軽に視聴できる構成への工夫が求められる。さらに、同一テーマ・タイトルの講義は経年的に視聴者数が減少する傾向があり、講義担当者には内容の更新を依頼している。

本講座は、附属病院のみならず、地域の訪問看護ステーションや医療施設からの視聴も多く、複数のコンテンツをシリーズとして継続的に視聴している受講者が多いことが明らかとなった。これらの状況から、本講座が地域における貴重な自己学習ツールとして活用されていることがうかがえる。今後は、各講座に推奨ラダーレベルを明記するなど、より利用しやすい学習ツールとなるよう工夫するとともに、地域のニーズに応じたコンテンツ提供を進めていく必要がある。そのためにも、アンケート回収率向上に向けた方策を検討していく。

表１　2025年度　看護専門分野別講座 実績表

講座	配信月	講義名		附属病院	北部医療センター	Ubポイント	病院	訪問看護	その他	総数	2024年度	前年との増減率
1	5月	がん患者の症状マネジメントの考え方を深め看護に生かす		21	4	7	93	21	0	146	133	109.8%
2		がん患者と家族の理解を深め看護に生かす		19	3	7	98	28	2	157	141	111.3%
3	6月	がん疼痛看護　Ⅰ		13	4	12	92	31	1	153	135	113.3%
4		がん疼痛看護　Ⅱ		15	4	9	89	20	2	139	107	129.9%
5	7月	緩和ケア概論		17	6	9	86	12	0	130	123	105.7%
6		心電図の報告のタイミング	講義時間短縮	22	7	16	42	8	3	98	81	121.0%
7		【院内限定】摂食嚥下のメカニズムと嚥下評価から段階的ステップアップに向けて	プログラム再編	15		16				31		
8		【院内限定】摂食姿勢の調整と食事介助について	プログラム再編	13		15				28		
9	8月	緩和ケア　症状マネジメントⅠ　呼吸困難・全身倦怠感		14	3	10	56	28	2	113	92	122.8%
10		麻酔が生体に及ぼす影響について	表題の変更	20	4	7	38	5	1	75	87	86.2%
11		はじめから学ぶ退院支援①地域包括ケアシステムとは	★新規開講	17	3	19	49	12	2	102		
12		はじめから学ぶ退院支援②退院支援の実際	★新規開講	19	2	19	46	10	2	98		
13	9月	緩和ケア　症状マネジメントⅡ　リンパ浮腫		11	7	11	53	28	1	111	93	119.4%
14		緩和ケア　症状マネジメントⅢ　せん妄		7	4	10	55	17	1	94	91	103.3%
15		褥瘡のリスクアセスメント	視聴期間延長	14	3	33	60	18	1	129	73	176.7%
16		体圧管理	視聴期間延長	14	2	39	49	12	1	117	97	120.6%
17	10月	がん化学療法の概論～大腸がんを中心に～		7	5	2	25	9	1	49	46	106.5%
18		抗がん剤の取り扱い　曝露対策		7	6	2	21	5	2	43	46	93.5%
19		抗がん剤の副作用--症状マネジメントとセルフケア支援、便秘について～		9	7	0	24	8	2	50	61	82.0%
20		スキンケア、スキンテア	視聴期間延長	12	2	17	42	14	2	89	92	96.7%
21		深達度別褥瘡管理	視聴期間延長	16	1	17	44	10	1	89	78	114.1%
22	11月	放射線療法の種類と放射線の作用		8	3	4	14	9	1	39	45	86.7%
23		放射線療法を受ける患者の看護・有害事象の予防とケア		10	4	5	19	9	1	48	42	114.3%
24		放射線防護		6	2	7	12	3	1	31	24	129.2%
25		アピアランスケアについて	★新規開講	7	9	9	20	5	3	53		
26	12月	なぜ血糖が高いとダメなの？ケモ・オペ時は？	表題の変更 視聴期間延長	10	2	6	22	15	1	56	38	147.4%
27		血糖を下げる薬って？	表題の変更 視聴期間延長	10	2	5	14	15	1	47	26	180.8%
28		糖尿病になったら何食べる？運動は？	表題の変更 視聴期間延長	9	2	4	14	14	1	44	30	146.7%
29		糖尿病」患者さんの行動って変わるの？	表題の変更 視聴期間延長	10	2	3	16	13	1	45	25	180.0%
30	1月	老年看護概論	★新規開講	6	1	20	27	10	0	64		
31		認知症の認知機能障害（中核症状）の理解とアセスメント		14	1	26	44	10	0	95	38	250.0%
32		認知症の行動・心理症状（BPSD）の理解とアセスメント		11	2	21	34	9	0	77	44	175.0%
33		せん妄の看護		13	2	24	43	7	0	89	58	153.4%
		総数		416	109	411	1341	415	37	2729	2023	134.9%

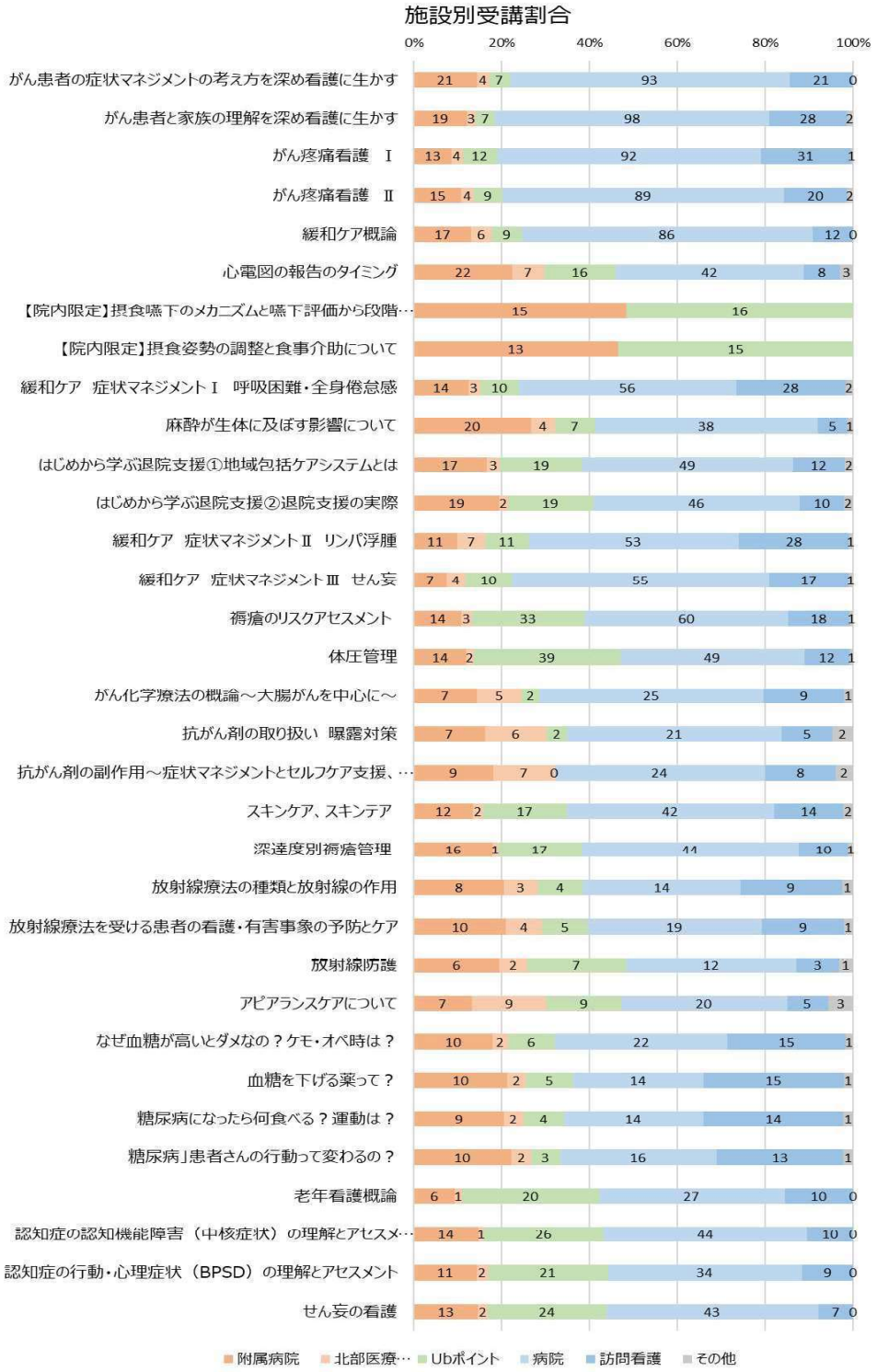


図１　施設別受講割合

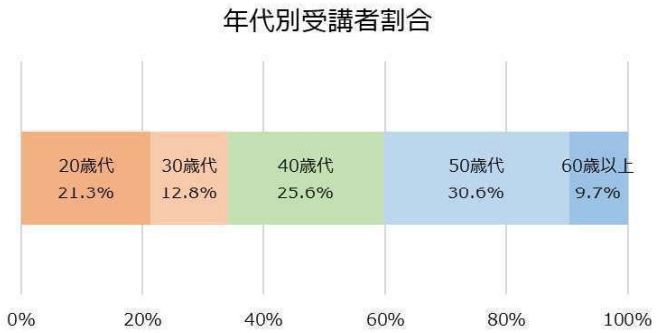


図２　年代別受講者割合

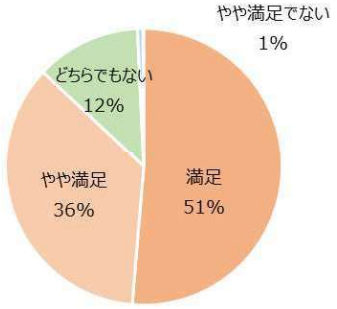


図３　受講者満足度の評価結果

報告者：看護実践キャリア開発センター　濵崎一美

5)看護研究支援研修

Ⅰ．研修の概要

対象：①JNA クリニカルラダーレベルⅢ以上の看護師

②Excel の基本的操作ができる方（定員 15 名）

目的：看護研究の計画立案、データ収集、分析、考察、論文執筆を行うために必要な知識・技術を学ぶ。

方法：講義、演習、オンデマンド

評価：各回終了後のアンケートおよび全終了後のアンケート

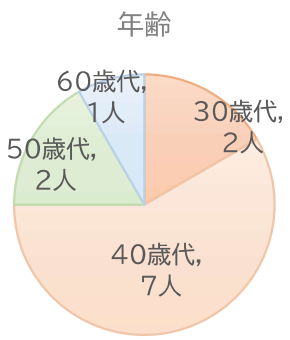
講義内容と目標、形式、担当者内容とスケジュール：下表参照

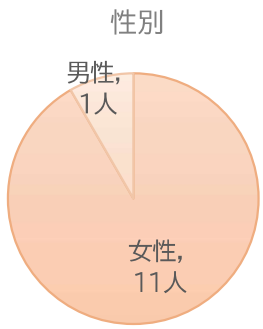
日時		講義・演習内容	目標	形式	担当者
第1回	７月2日（水） 13:00-17:00	1.看護研究の意義と目的 2.リサーチクエスチョンと概念枠組み 3.研究デザインと研究計画書 4.文献の検索方法	・看護研究の意義・目的を理解し、看護実践における課題をリサーチクエスチョンとして言語化することができる ・研究計画書の内容および作成方法を理解することができる ・データベースを用いた文献検索を実施することができる	講義	毛利貴子 図書館司書
第2回	7月24日（木） 9:00-12:00	1.質的研究の特徴と種類 2.質的研究のデータ分析	質的研究の特徴をふまえ、データ収集、分析方法を理解することができる	講義	伊藤尚子
	13:00-17:00	1.質的データの分析方法 2.概念図の作成 3.結果の発表	質的データの分析方法を学び、抽象化や統合することができる	演習	伊藤尚子 毛利貴子 越智幾世他
第3回	8月20日（水） 9:00-12:00	1.量的研究の特徴と目的 2.統計解析について 3.質問紙の作成方法 4.データのExcel入力方法	量的研究の特徴をふまえ、データ収集、分析方法を理解することができる	講義	毛利貴子
	13:00-17:00	1.Excelを用いた記述統計 2.図表の作成方法 3.結果の解釈	数量データの分析方法を学び、結果を解釈することができる	演習	毛利貴子 越智幾世他
第4回	8月20日～ 31日 公開予定	1.学会発表の方法 2.抄録作成のポイント 3.プレゼンテーションのコツ 4.パワーポイント・ポスター作成	・抄録・論文の作成方法を理解することができる ・効果的なプレゼンテーションの方法を理解することができる	ｵﾝﾃﾞﾏﾝﾄﾞ	毛利貴子

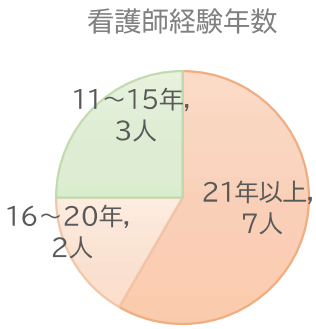
Ⅱ．各回の受講状況と評価

<u>第１回　2025 年７月２日（水）「看護研究の意義と目的」毛利貴子/「文献検索演習」図書館司書</u>

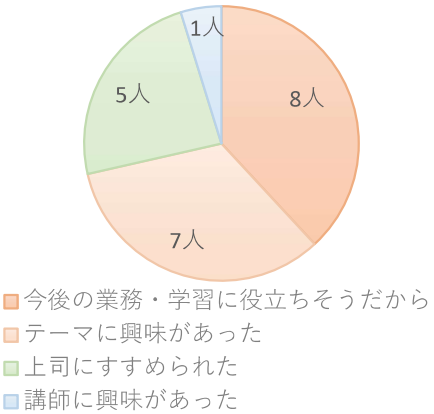
受講者：14 名（回答 12 名：回収率 85.7%）



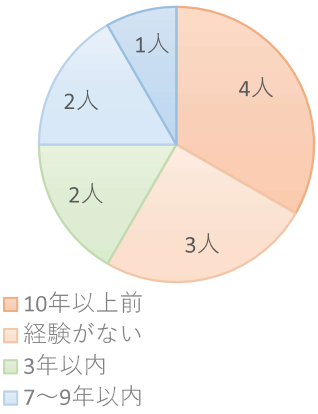




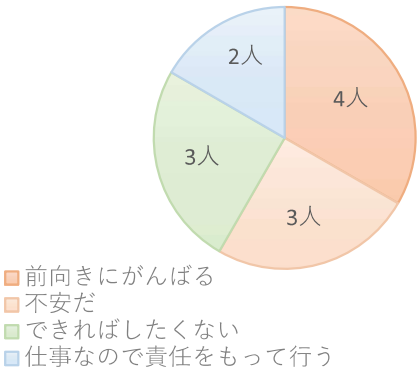
受講動機（複数回答）



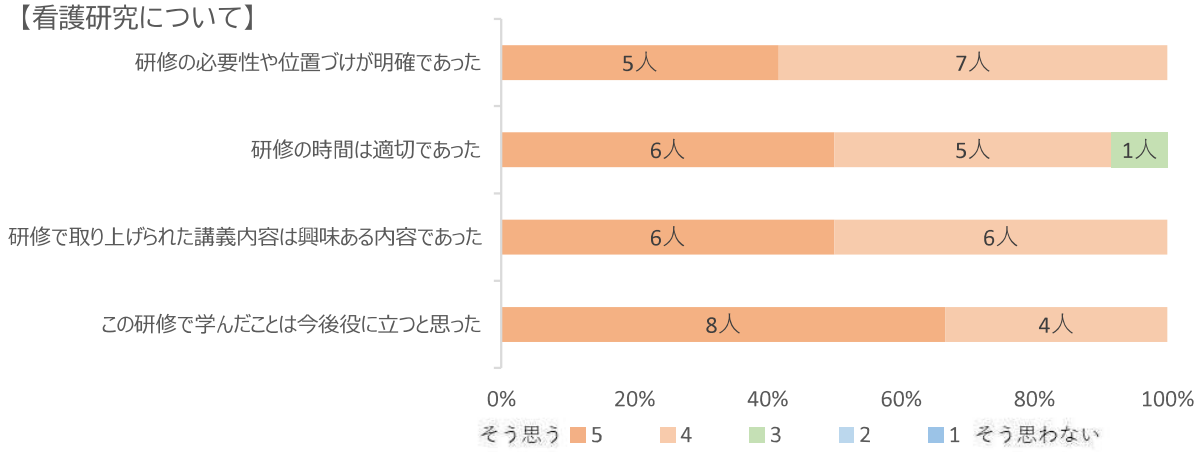
看護研究の実施経験



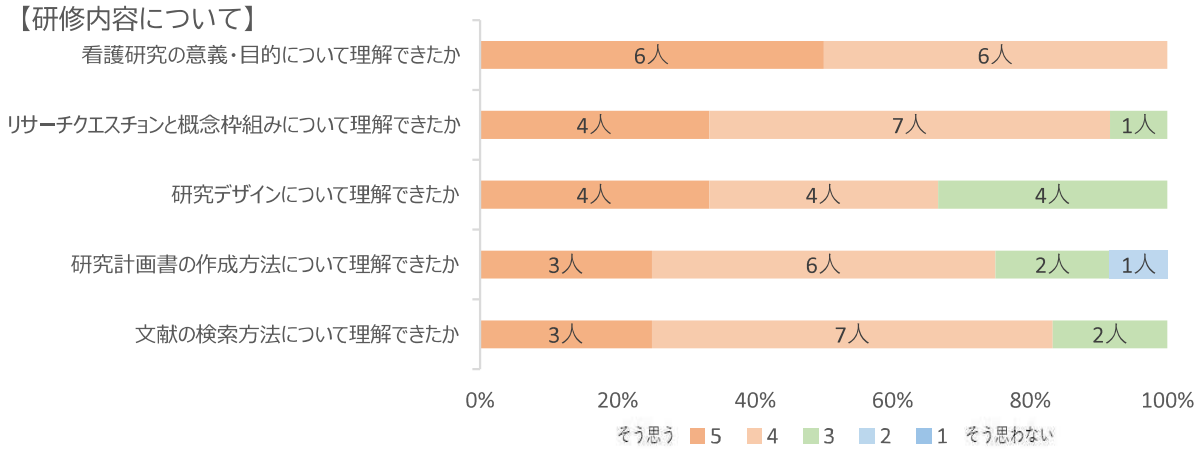
看護研究を担当することについて

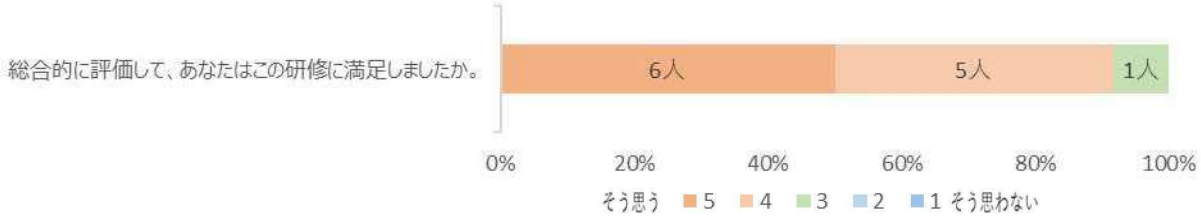


【看護研究について】



【研修内容について】

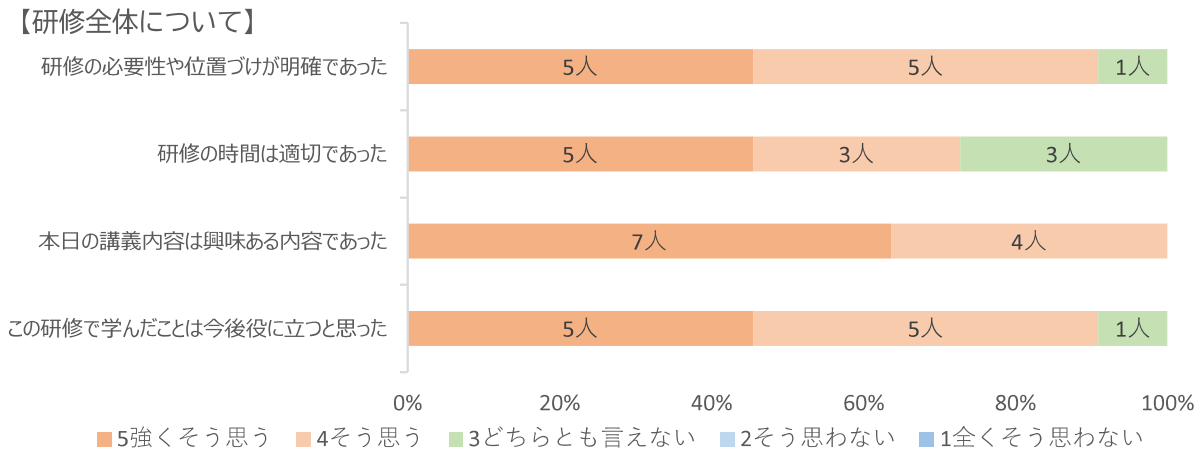


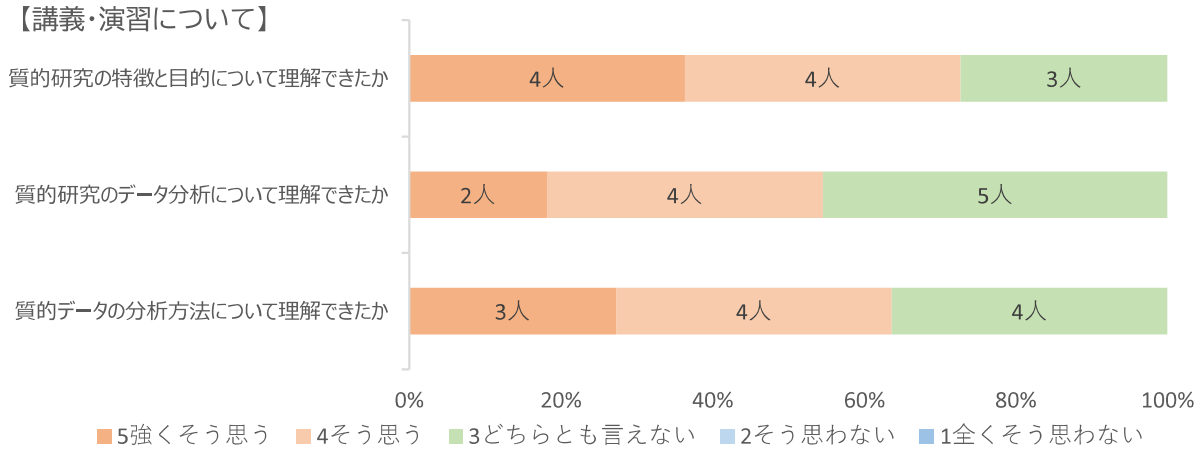


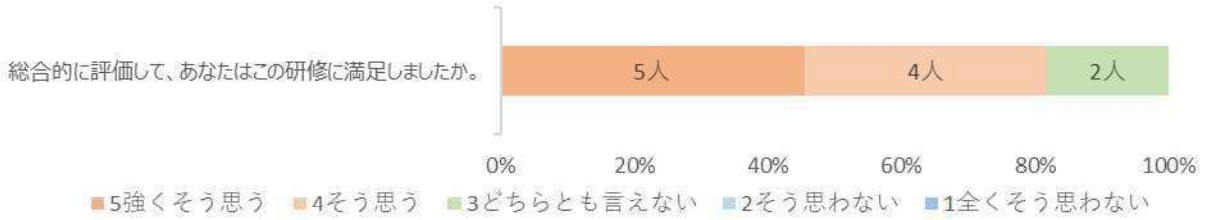
自由記述より：○講義もわかりやすかった上に文献検索の仕方まで教えてもらえたのでよかったです。
○とても分かり易かったです。
○休憩も何度か取っていただき、集中して受講する事ができました。遠方なので、オンライン等で参加できればいいなぁと思います。
○事例研究とケースレポートについて、とてもわかりやすかったです。今後、指導していきたいのでよかったです。以前、別の大学の講師が業務改善も研究になると言い、私としては方法が違うので困り、結局、指導するときに介入研究としてまとめてもらいました。臨床でよくあるのですが、業務改善を研究にまとめられるでしょうか？
○研究について殆ど知識がない状態なので 1 から教えて頂ける機会を作って頂き有難うございます。
○まず研究テーマを考えること、やりたいテーマの文献検索で先行研究があった場合に、それとは異なる内容のテーマで研究できるか絞り込んだり、探したりするのが大変そうに感じた。
○新たな情報をお聞きすることができて良かった。
○研究についてしっかり学んだ事がないままに看護研究をしていたため不安だったが、基本的な事から学べて大変勉強になりました。

第 2 回 2025 年 7 月 24 日（木）「質的研究の特徴」伊藤尚子/「質的データの分析方法」伊藤尚子他

受講者：14 名（11 名：回収率 78.6%）







自由記述より：○逐語録は大変でしたが、とても良い経験でした。質的研究も勉強したかったので、すごくわかりやすかったです。越智先生が「ＡＩの文字起こしじゃ伝わらないのよ」という言葉に、看護の原点を考えさせられました。ありがとうございます。

○今まで看護研究にほとんど、携わって来なかった初心者であり、講義内容は大変素晴らしかったですが、理解が追いつかなかった部分がありました。数値のデータで研究する事を多く見聞きしていましたので、質的研究を難しく感じました。皆さんの考えを知って学びも多かったです。大変恐縮ですが、資料のバックが黒なので、紙資料が見えにくく、白地にしていただけるとありがたいです。

○グループ間での解釈の違いが大変興味深かった。グループの中での話し合いもいろんな意見が出て視点が多くなって楽しかった。

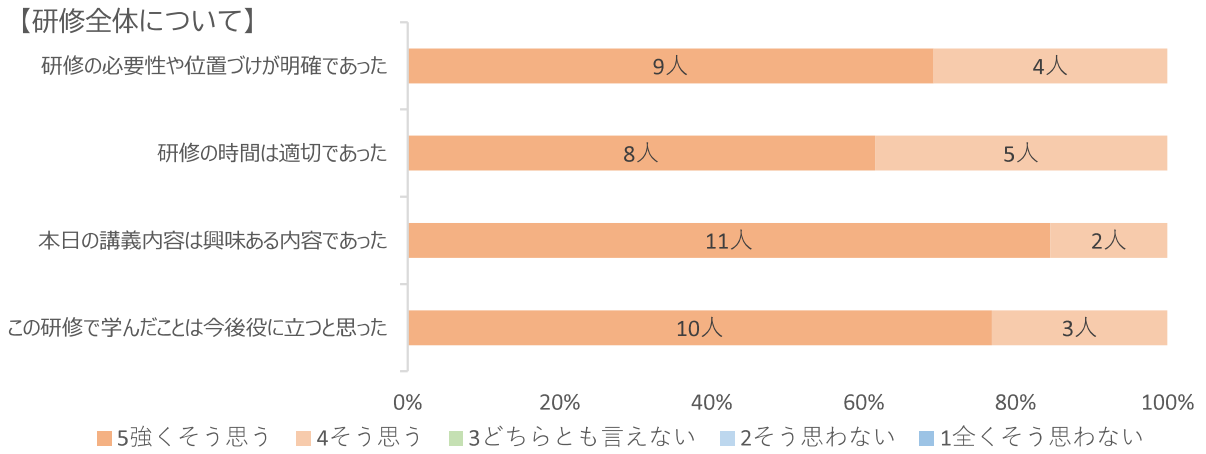
○本日は遅れての参加となり申し訳ありませんでした。とても充実した時間で、1 日掛けての研修でしたがあっという間に終わったように感じました。内容の理解がやや難しく、最後のグループワークまで不安がありましたが、お陰様で何とか方向性は見えたと思います。一点、配布いただいた資料ですが背景が暗いと書き込みがしにくいのと、文字と重なり見えづらくなっていました。改善を検討いただけますと幸いです。ありがとうございました。

○資料ですが白黒印刷だったのと、スライド背景が塗りつぶしだったので、濃い色の印刷部分が見えない状態になっていました。わかりにくかったです。

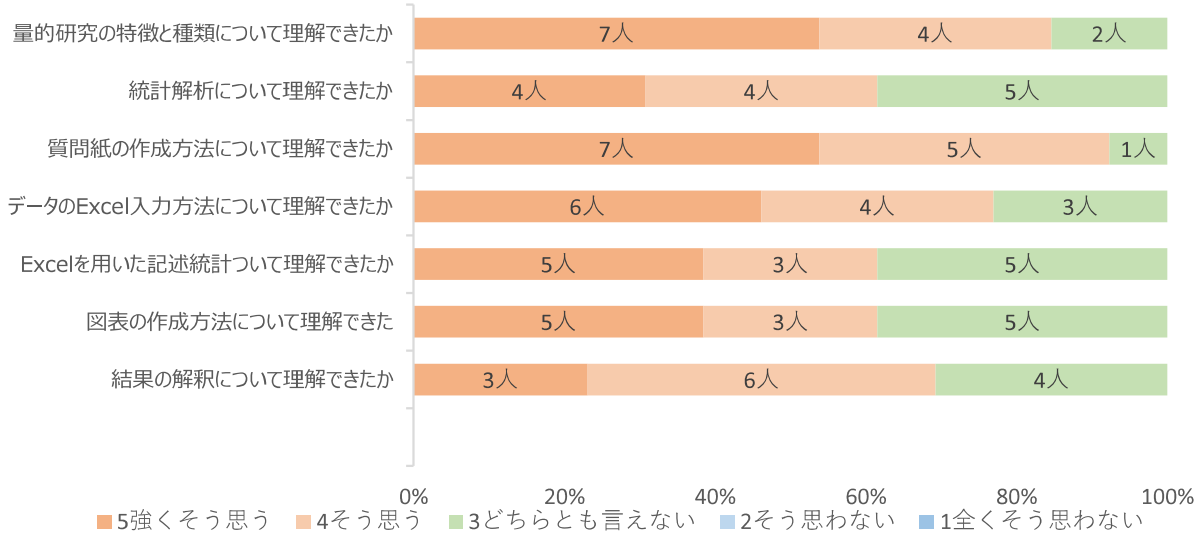
○時間が足りなくて残念だった。先生がおっしゃったように、一日で理解、実践できるものではなかったが、導入部分としてやってみた概念生成はとても興味深かった。一人で考えたことが、ディスカッションすることで深まったり、また新たな視点から見られたりしたことも勉強になったと思う。研究とは多くの人の協力や支援が必要であり、とても楽しかった。

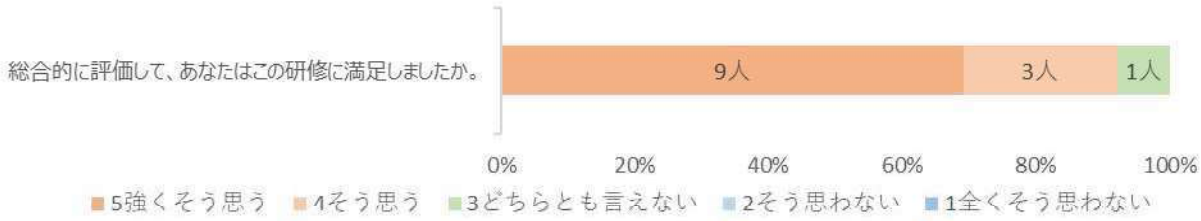
第 3 回 2025 年 8 月 20 日（水）「量的研究の特徴」毛利貴子/「Excel を用いた記述統計」毛利貴子他

受講者： 14 名（回答 13 名：回収率 92.8%）



【講義・演習について】





自由記述より：○ここまで深く勉強させてもらえてとても学びになり、研究がたのしいと思えました。

○難しかったです。習得するのには、まだまだかなりの勉強が必要だと思いました。

○SPSS と Excel で表を作り分析方法を実践できて以前触った時よりも理解しやすく苦手意識を克服できた。質的、量的研究の両方を体験できて学び多かった。

○今回の学びを活かして研究委員として研究をするスタッフを助けることができたらいいなと思っています。

○研究は労力がいることだと改めて感じましたが、大変興味深く是非がんばってやってみたいと思いました。文献検索の必要性、分析の仕方などあいまいな知識が色々明確になったと思います。

○教えていただいたことをメンバーと共有して、良い看護研究ができるように頑張ります。ありがとうございました。

○とても楽しかったです。職場では今回の研修希望は、自己研鑽と判断されたので夏季休暇を使って参加しましたが、その価値はありました。Excel の分析も教えてもらえて、30 年看護研究を自己学習してきて本当に良かったと思います。現場では、研究手法を知る人がおらず自分だけが頼りです。でも、今回、センターで相談できると知って心強く感じました。今、理解不能な質的研究の木下先生の本を読んでいます。帰ったら、今まで勉強した研究の本を読み直して、また、いつか腑に落ちる体験につながればと思っています。ありがとうございました。

○講義と演習を交えながらの研修で、楽しく学べました。

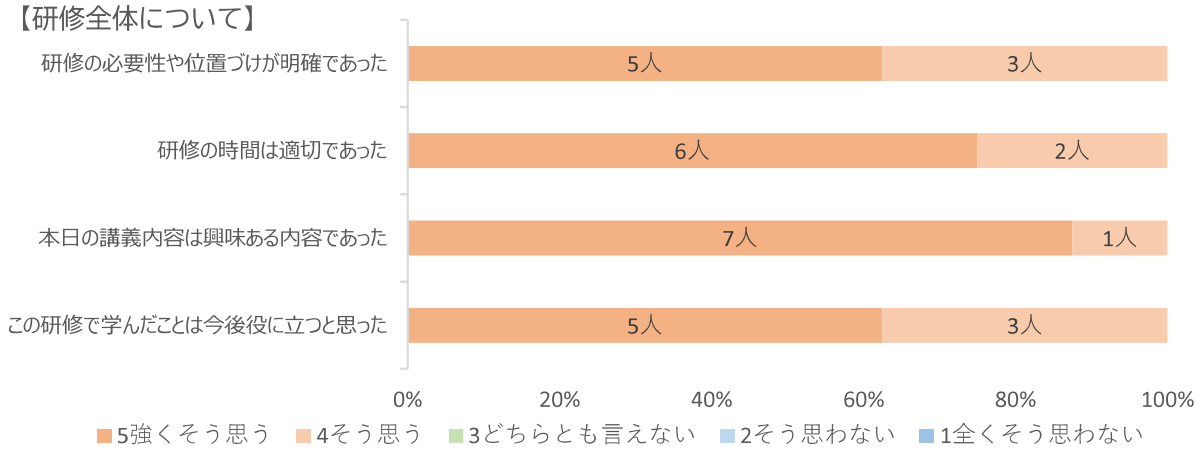
○Excel 入力が慣れなかったので、ヒストグラムとカイ二乗検定のあたりで少し遅れをとってしまいました。少し慣れも必要かなと思うので、また資料を見ながらやってみます。ただ、データを取った後の読み取りが大事かなと思うので、読み取り方のコツなども教えていただけるといいなと思いました。

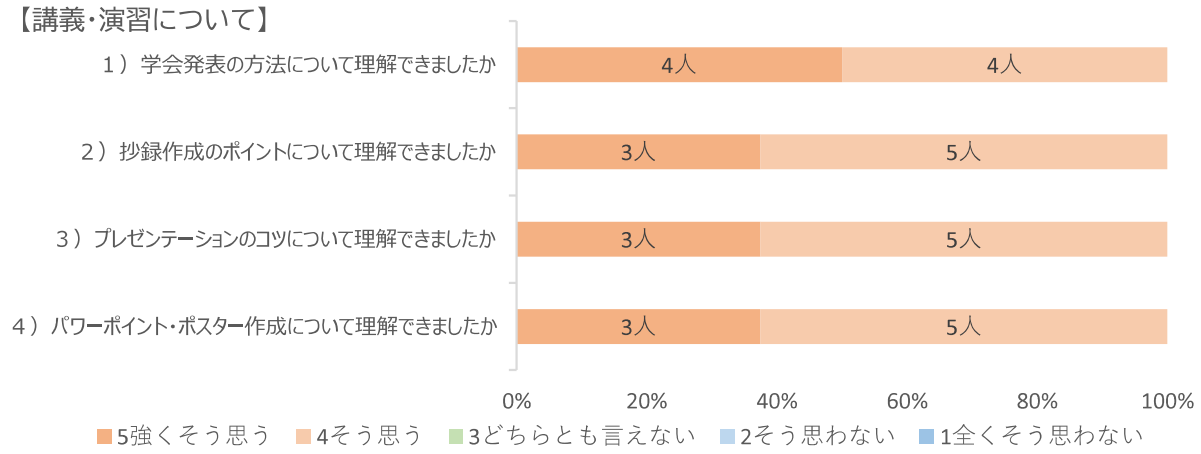
○量的研究について勉強になりました。ただ、自分自身の知識が足りず、少し講義についていけない場面がありました。もう一度振り返り勉強したいと思います。Excel も少しついて行けませんでしたが、ゆっくり説明していただきなんとか出来ました。

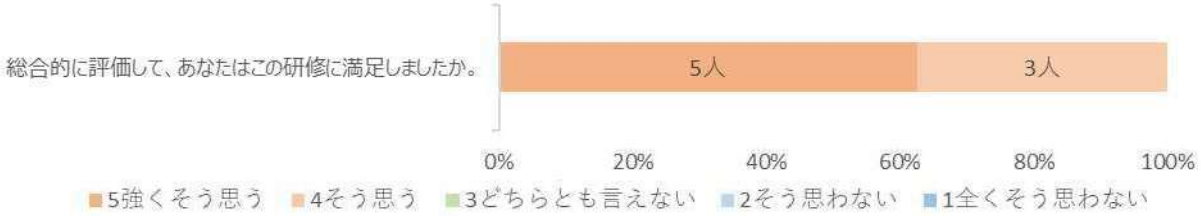
○今回看護研究について学べる機会を与えて頂きありがとうございました。自分で学ぼうにも道標がない状況でしたので、直接教えていただけるのは大変有り難かったです。今後何かしらの研究をやっていく(はず)ので、困った時には相談させて頂きたいと思います。今回はありがとうございました。後、開催時期がもう少し涼しい時期にあると嬉しかったなぁと思います。

第４回　オンデマンド「学会発表の方法、抄録作成のポイント他」毛利貴子（配信期間：2025 年８月 20 日～8 月 31 日）

受講者：８名回答（回収率 57.1%）







自由記述より：○今まで自己学習で学んできたことが、講義して下さったので整理でき、指導の時に活用します。

○実際に講師の先生が作成されたポスター発表の様子や抄録のポイントなど、具体的な例をあげて説明していただく事で分かりやすく理解できました。正直なところ今までやった研究はここまで考えて取り組めていなかったので、この研修で得た知識や取り組み方を自分の中で整理し、他のスタッフにも伝えて行きたいと思います。

○学会で発表するのはとても緊張しそうですね。毛利先生が学会で初めて発表された時に、これをやっていてよかったなと思うところや、こうしていればよかったなどの反省点などがあればぜひお聞きしたいです。

Ⅲ．看護研究支援研修全体の評価（最終回受講生アンケート自由記述より）

○初心者でもわかりやすく教えて頂けたのでよかったです！

○今回、研修に参加できて本当に楽しく、あとで資料や研究の本を読み返しました。研修中、看護研究の自己学習をしている参加者でないと専門用語（特に統計や質的研究）は難しいのではないかと思いました。研修の帰りに「途中、講義全然わからなかった」という話し声も聞こえました。今回は指導者対象ですが、看護研究初めての方も参加していたので事前学習や参考資料の提示も必要かと思いました。ただ、勉強するかしないか本人次第ですが。とても良い研修なので当管理職者にも勧めたいのですが、興味のある人がおらずもったいないと思います。最近はインターネットでも原著論文も読むことができ便利になりましたが管理職でさえ文献や理論を勧めても嫌がられるので、毎年、新しい人に看護研究を指導しそこで終わりという状況です。看護研究の大切さを細々でありますが伝えていこうと思います。

○とても学びの多い研修でした。研究初心者で理解不十分なところもありますが、これからも学んでみよう続けてみようと思えました。貴重な研修を開催していただきありがとうございました。

○研修というより大学の授業を受けているような満足感でした。

○まだ不安なことも多いですが、研究に対し第 1 歩を踏み出せそうです。

○量的研究、質的研究と、双方の研究データのまとめ方について、教えていただきありがとうございました。身近な業務改善や臨床疑問に取り組んでいきたいと思います。

Ⅳ．今後の課題

当研修における 2025 年度の特徴は、「指導的立場にある方」を対象とし、「初歩的なところから」学ぶ研修と明記した点である。また、これまでは統計ソフト SPSS を用いて量的研究のデータ分析演習をしてきたが、所属施設に SPSS がない施設が多いことから、Excel を用いた記述統計も取り入れることにした。しかし、量的データ分析の知識がないと Excel を用いた分析も容易ではなく、目標設定や研修内容を見直す必要がある。次年度の開催では、事前の参考資料提示など工夫を検討する。

京都府立医科大学　看護実践キャリア開発センター　教授　毛利貴子

6)ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

１．事業について

本事業は、京都府立医科大学、附属病院、看護実践キャリア開発センターが一体となり、高度なクリティカルケアの看護実践能力を有する看護師養成およびネットワーク構築を目指すものである。

2．プロジェクトの概要

【対象】京都府内の医療施設に勤務する臨床経験 3 年目以上の看護師

【内容】2025 年度は、実践的な看護能力の向上を目的とした「実践コース（A コース）」と、知識習得を中心とした「学習コース（B コース）」の 2 コース体制とした。

【コースの概要】

実践コース（A コース）e-learning および対面講義と演習 4 週間の実習（OJT）

学習コース（B コース）e-learning および対面講義と演習 2 日間の見学実習

3．教育プログラム

１）2025 年度開講期間

前期 2025 年 4 月 1 日～9 月 30 日　後期 10 月 1 日～2026 年 3 月 31 日

２）開講の概要

4 月	4/2 2025 年度前期開講式　e-learning 開始
5 月	5/13～6/17 講義・演習（本学臨床医学棟 1 階カンファレンスルーム・スキルスラボ） 5/22 ICLS コース実施（日本救急医療学会認定コース）
6 月	6/27 ドクターヘリ基地病院見学（済生会滋賀県病院）
7 月 8 月	【施設実習（A コース）】 7/14～8/8 京都大学医学部附属病院（ICU・EICU・ER） 7/14～7/25 本学附属病院（ICU）7/28～8/8 宇治徳洲会病院（ER） 【施設見学実習（B コース）】 7/11 病院（PICU）7/29～30 京都第二赤十字病院（ICU・初療室）7/31 市立福知山市民病院（ICU）
9 月	9/30 2025 年度前期閉講式・成果発表会・特別講座実施
10 月	10/1 2025 年度後期開講式・e-learning 開始 10/24 公開講座
11 月	11/11～12/16 講義・演習開始（本学臨床医学棟 3 階カンファレンスルーム・スキルスラボ等） 11/20 ICLS コース実施（日本救急医療学会認定コース）
12 月	12/11 ドクターヘリ基地病院見学（済生会滋賀県病院）
1 月 2 月	【施設実習（A コース）】 1/19～2/13 宇治徳洲会病院（ICU・ER） 2/2～2/27 京都第一赤十字病院（ICU・救急室） 【施設見学実習（B コース）】 本学附属病院（PICU1/13・1/15・2/13・救急外来 2/24・手術室 3/6） 2/3～2/4 洛和会音羽病院（ICU・ER） 2/5～2/6 京都医療センター（ICU・ER）
3 月	3/4 評価委員会 3/27 2025 年度後期閉講式・成果発表会・担当者連絡会議予定（オンライン）

３）受講者内訳

【前期】 A コース 2 名 B コース 3 名　【後期】 A コース 2 名 B コース 5 名（1 名途中辞退）

4）形成的評価　成果報告書参照

5）総括的評価

① 受講者の受講前後のクリニカルラダー評価の比較

評価の方法：集中治療に携わる看護師のクリニカルラダー（日本集中治療医学会,2019）を使用し自己評価したものを、本研修参加前と終了時を比較した。クリニカルラダーの評価方法として１要素につき１点とカウントし、比較した。

- Ａコースでは、２名ともがラダーレベルⅡに到達した。「意思決定を支える力」、「ケアする力」はいずれもレベルⅢに到達する項目もあった。「ニーズをとらえる力」、「協働する力」について評価が伸びており、OJT での経験が反映していると考えられた。（図１）
- Ｂコースでは、ラダーレベルのステップアップはなかった。個人の差はあるが、複数の項目で自己評価の向上が認められ、「ニーズをとらえる力」「協働する力」について評価が伸びる傾向にあった（図２）

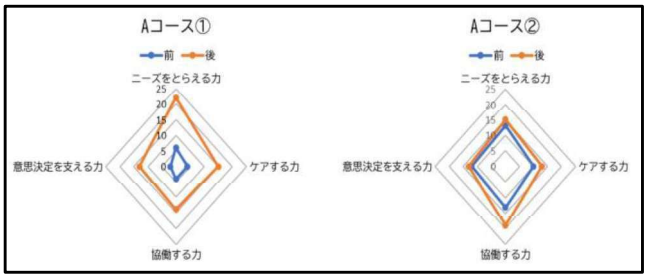


図１　Ａコースにおけるグループ間のクリニカルラダー変化（研修前後比較）

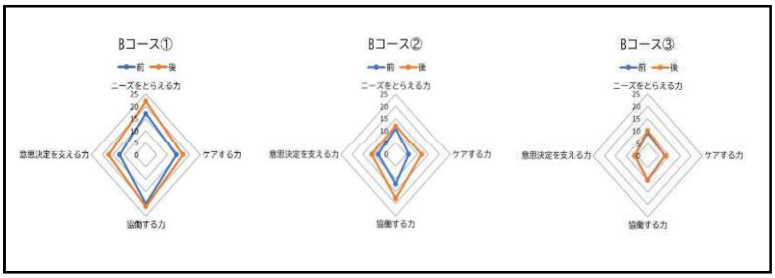


図２　Ｂコースにおけるグループ間のクリニカルラダー変化（研修前後比較）

② 実習で新たに経験した技術および対象患者の状況

- 新たに経験した看護技術

Ａコースでは、4 週間の OJT を通じて 2 名とも未経験項目が大きく減少し、それぞれ 27→4 項目、12→4 項目となった。また、「人工呼吸器離脱に向けた鎮痛・鎮静剤の調整」、「重症患者のリハビリテーション」など、多職種連携に関わる実践的な経験も得られており、4 週間の OJT で継続的に患者に関わることができた成果が反映されていた。

Ｂ コースでは個人差はあるものの、「血液ガス分析から循環不全の重症度を評価する」、「スケールを用いたせん妄評価や鎮痛レベルの評価」など、短期間の実習でありながら重症患者の観察・判断に直結する技術を複数経験することができていた。

- 経験した患者の疾患・状態

担当した患者の疾患・状態は多岐にわたり、急性呼吸不全、心不全、脳血管疾患、外傷など、幅広い重症患者を受け持っていた。

③ まとめ

本事業には、京都市内に限らず、京都府南部・北部からも受講生が参加しており、府内全域に開かれた学びの場となっている。また、高度急性期医療機関だけでなく、地域密着型の中小規模病院からの参加もあり、さまざまな医療環境で働く看護職者が共に学ぶ機会となっている。さらに、複数の医療機関から講師を招くことで、施設の枠を越えた交流や知識共有が生まれ、地域全体でクリティカルケアを支えるネットワーク形成にも寄与している。こうした広がりは、地域医療の質向上に寄与する人材育成の場として、本事業が一定の役割を果たしていると評価できる。また、大学教員、認定看護師、専門看護師、DMAT 隊員など、多様な専門性とキャリアを持つ看護師から直接指導を受けられる点は、本プログラムの大きな特徴である。それぞれの指導者が歩んできたキャリアの背景や実践知に触れることで、受講生は自身の将来像をより具体的に描くことができるようになっている。多様なロールモデルとの出会いは、受講生のキャリア構想への刺激となり、クリティカルケア領域での専門性追求や新たなキャリアパスへの意欲を高める契機となっていると考える。

文責：看護実践キャリア開発センター　濵崎一美

３．教育･研究支援連携推進部門

1) e-learning

当部門では、看護学科の教員による附属病院看護部への研究支援、附属病院看護師による看護学科および大学院保健看護学研究科の教育支援、附属病院看護部･看護学科･保健看護学研究科･当センター相互の研修支援の調整を行っている。

また、e-learning の整備･活用、看護職キャリア交流会の企画運営もこの部門が担っている。e-learning の活用実績について以下に報告する。

【 e-learning 実績報告 ―看護学科―】

1. 活動内容

･新入生（23 期生）オリエンテーションにて:e-learning 使用方法説明、ID･パスワードの配布（4 月 8 日）
使用方法については、パワーポイントによる説明を行った。
･オンラインによる講義や実習･演習に利用推進（4 月～1 月）
･アクセス状況確認、報告書作成（1 月）
･ID･パスワード紛失の対応（随時）
･リニューアル状況の確認と関係者への周知（随時）

2. 看護学科コンテンツ数

･30 アイテム利用可能であるが、20 アイテムの登録がされており、現在 9 アイテムを使用中
･使用領域は、基礎看護学Ⅰ･Ⅱ、成人看護学、小児看護学、在宅看護、老年看護学、母性看護学･助産学Ⅰ～Ⅳ

3. 利用件数

看護学科生･教員利用件数は表のとおりである。今年度から 2025 年度の合計には教員利用件数を外している。

アクセス数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
2022年（R4）	2,245	4,505	2,525	2,894	469	1,362	6,555	4,144	1,947	4,501	31,147
2023年（R5）	593	4,921	3,656	4,995	223	1,184	4,055	3,895	395	2,546	26,463
2024年（R6）	303	4,041	8,065	2,446	70	1,433	5,901	2,857	443	2,381	27,940
2025年（R7）	263	3,066	678	984	27	1,049	10,637	5,517	1,233	12,351	35,805
4回生（21期生）	168	2,524	258	1	0	8	8,905	1,343	146	12	13,365
3回生（22期生）	0	111	73	6	27	772	288	2,719	415	2,678	7,089
2回生（23期生）	86	431	347	977	0	0	313	1,103	9	0	3,266
1回生（24期生）	9	0	0	0	0	269	1,131	352	663	9,661	12,085
教員	34	64	9	109	7	35	22	17	29	34	360

4．コンテンツ閲覧数：

看護学学生 1 から 4 回生のコンテンツの閲覧では、手技においては、環境整備（1164）バイタルサインの測定:呼吸（1138）母性看護学･助産学Ⅱ（1078）母性看護学･助産学Ⅰ（1037）体位変換（974）の順に多くアクセスされていた。動画講義においては、在宅における死後のケア（エンゼルケア）（36）エンゼルケア（27）感染対策の具体-すぐに役立つ 10minutes レクチャー（18）看護師が行う精神症状のアセスメント（MSE）（17）看護補助者対象講義-実践編-（17）
の順で多かった。

＜2025 年 4 月～2026 年 1 月 31 日現在 ＞

5．まとめ

・ ログイン ID 再発行以外の利用者からの問い合わせはなく、円滑に運営できている。
・ 昨年度に比べて 7,865 件の視聴件数の増加がみられる。コンテンツは随時更新されており e-learning の内容が充実しているため、活用の幅が拡大できていると思われる。今年度は 1 回生、4 回生の利用が顕著であった。引き続き、授業の事前課題として計画するなど担任と連携しつつ、ナーシングスキル･エルゼピアの利活用の促進に努める。

報告者：看護実践キャリア開発センター　越智　幾世

附属病院「e-learning」実績報告

Ⅰ．活動内容

１）新規採用看護師を対象に、e-learning の使用方法についてオリエンテーションを実施した。

２）院内研修の受講者を対象に、事前学習および講義の一環として e-learning を活用した。

３）看護補助体制充実加算に伴い、未受講者を対象に e-learning の受講を推進した。

Ⅱ．利用件数及び閲覧状況

	年度	講義動画	手技動画
全看護師総アクセス数	2025 年度	4682	11906
	2024 年度	10562	17053

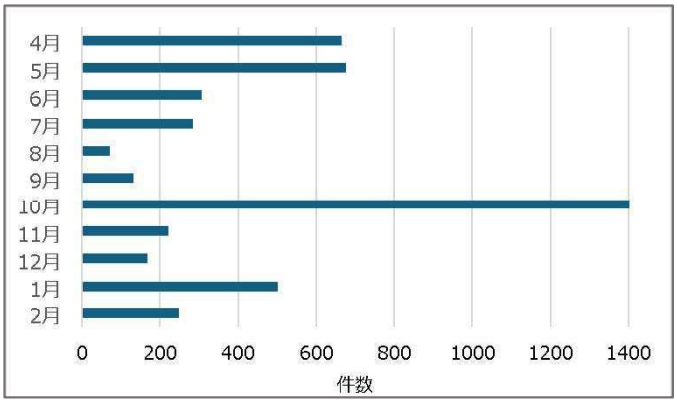


図１　2025 年度月別講義動画視聴件数

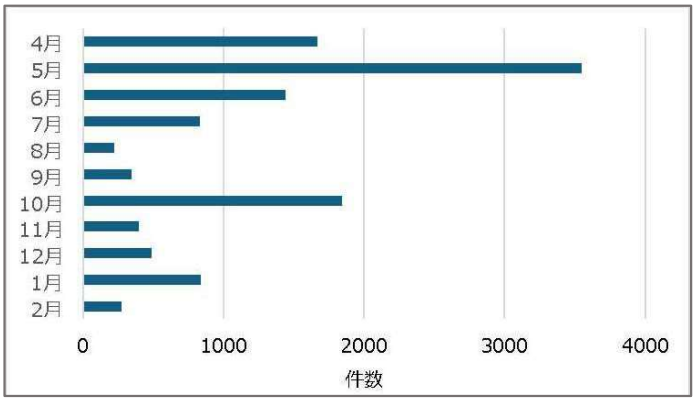


図２　2025 年度月別手技動画視聴件数

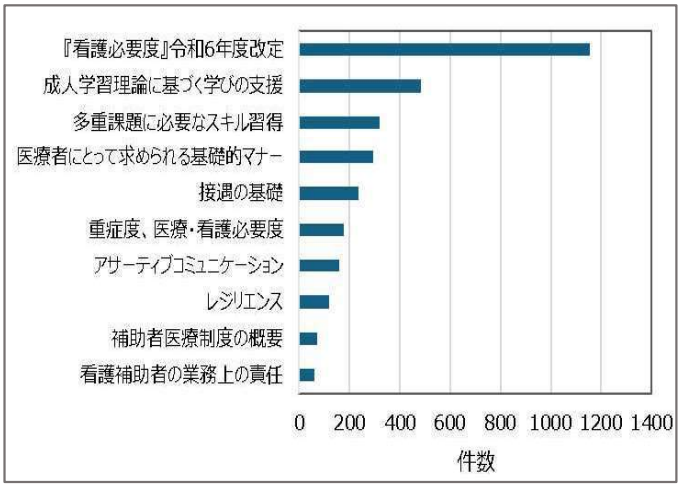


図３　2025 年度テーマ別動画講義視聴件数上位

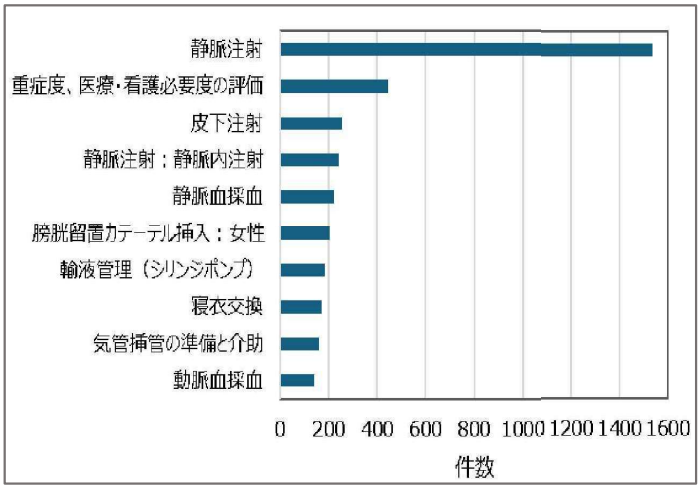


図４　2025 年度テーマ別手技動画視聴件数上位

Ⅲ．まとめと今後の課題

今年度の総アクセス数は前年度より減少した。前年度とほぼ同様の推進状況であったことを踏まえると、e-learning の自発的・継続的活用には伸び悩みがみられる。一方で、研修実施時期には視聴数の増加が確認され、特に手技動画は一定数利用されており、実践支援ツールとしての活用は継続している。テーマ別では、手技関連や基礎的ケアに加え、「重症度、医療・看護必要度評価方法」が上位に位置しており、臨床実践の質の確保や診療報酬制度に直結する内容への関心の高さがうかがえる。また、今年度後半より特定行為研修に関連する動画の視聴が可能となった。今後はこれらのコンテンツも活用しながら、新キャリアラダー導入と連動させ、計画的かつ継続的な視聴促進につなげていくことが課題である。

報告者：（附属病院看護部）田中真紀・神澤暁子・宇山珠美

【北部医療センター 「e-learning」 実践報告】

【活動内容】

1）新規採用者（看護職員・看護補助者）に対し e-ラーニングの使用方法を説明した。

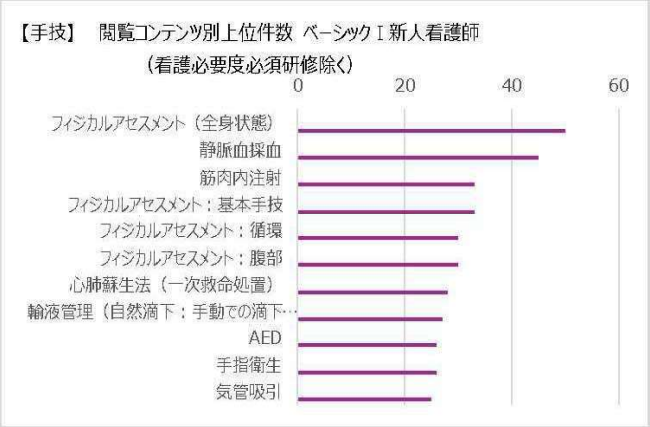
2）看護職員の院内研修で講義に使用し、事前学習や事後課題に活用した。

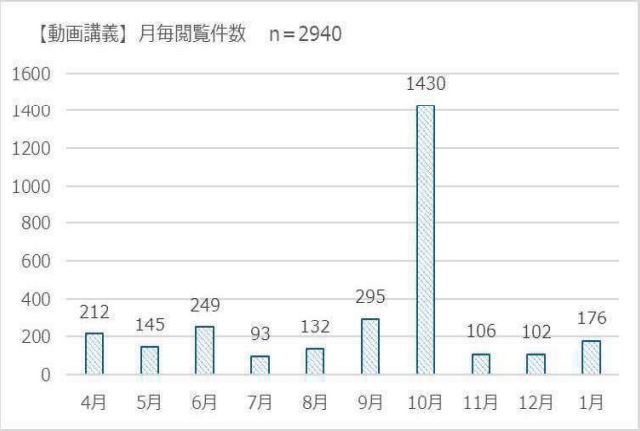
3）看護業務手順として活用した。また、院内看護業務手順の見直しの基礎資料として活用した。

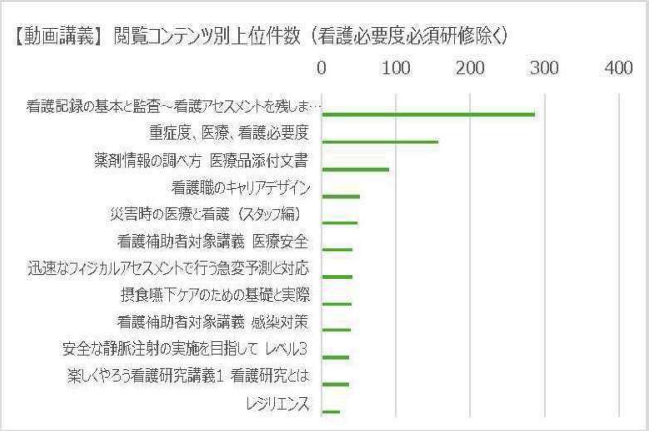
4）看護補助者の指導用マニュアルとして活用した。

【利用件数　閲覧状況】令和７年４月～令和８年１月

	手技	動画講義
総アクセス件数	4139 件	2940 件
ベーシックⅠ（B1）新人看護師	781 件	41 件
ベーシックⅡ（B2）２年目看護師 ベーシックⅢ（B3）３年目看護師	410 件	51 件







【まとめ　今後の課題】

新人看護職員の利用は、入職時研修等の講義内での活用により４月から５月の利用が集中した。新人看護職員の閲覧コンテンツは、講義の事前学習課題と基本看護技術項目が大半占めた。ラダー別研修において、講義内で使用する研修プログラムが増えたことが、閲覧件数の維持に影響した。動画講義では、看護必要度研修での活用に加えて、委員会の学習講義としての活用が増えたことが、視聴件数の増加の要因としてあげられる。今後、さらなる活用を推進するために、研修内の事前、事後課題としての利用の継続に加え、看護職員が利用しやすい環境整備や情報提供などを課題として取り組む。

報告者：京都府立医科大学附属北部医療センター　　白數多恵子

2)看護職キャリア交流会

今年度は、看護部との日程調整において、他の学会と日程が重なるなどにより、応募者が少数であったため中止とした。

今年度の課題と今後の展望

○ 課題：学科教員との情報交換の場としたい。

展望：看護部の研修ニーズの把握・部外講師等の検討

報告者　京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　宮田千春

４．評価プロジェクト部門

1．部門の目的（役割）

センター設置目的に照らし、センター事業の評価を担う。具体的には①各プログラムの成果評価、②評価委員会（外部評価）に向けた準備、③事業全体評価を行い、評価結果を改善・発展に結びつける。

2．2025 年度 年間目標

1．　単年度成果評価の実施と、年度末「評価ブリーフレポート」の取りまとめ（内部改善に資する要点化）

2．　中間・総括評価が機能する評価設計への転換（評価項目の集約、KPI 導入、外部評価の負担軽減）

3．　第 4 期（2024 年度開始）中間評価（2027 年 2 月予定）に向け、2024・2025 年度実績を新評価設計で蓄積

3．主な活動（実施事項）

- 単年度評価の運用継続：様式の見直し（ブリーフ化）と、事務局集計の前倒しにより記入負担の軽減を図った。
- 評価設計の抜本整理：『書く評価』から『判断と改善のための道具』へ転換する方針を共有し、上位評価軸と KPI に基づく評価へ移行準備を進めた。

4．評価項目の整理

従来の中間・総括評価は評価項目が細分化（15 項目）され、記入負担が大きい一方で、重要点（成果・次の一手）が埋もれやすい課題があった。2025 年度は、15 項目を上位概念に統合し、外部評価が『通知表』として機能する評価設計へ転換した。

【統合後の評価軸（4 つの力）】

- 社会の期待に応える力：社会的要請への対応、制度化・外部資金等も含む価値創出
- 看護職を育てる力：教育の質、学習成果、現場での実装（行動変容）
- 地域とつながる力：府内への開放性、参画拡大、学内外連携・発信
- 組織を支え動かす力：運営の健全性、標準化・改善（PDCA）、持続性

5．KPI 導入（可視化と省力化）

評価を『努力の記述量』ではなく『成果・変化』で判断できるよう、KPI を軸にしたダッシュボード型評価へ移行する。単年度→中間→総括が同一軸で連動し、年度比較と改善が容易になる。

評価軸（4 つの力）	主な観点（例）	代表 KPI（例）	備考
社会の期待に応える力	社会的要請・新規ニーズ対応、外部資金・制度化等	府内リーチ人数／新規参加施設比率	「地域に開かれた」到達
看護職を育てる力	教育の質・学習成果・実装	修了率／有用性評価／行動変容率	成果中心
地域とつながる力	府内連携・発信・参加の広がり	参加施設数／共同企画・相互派遣件数	連携の見える化
組織を支え動かす力	運営の健全性・改善の仕組み化	1 人当たり工数（又は簡易コスト）／持続指数	属人化防止

6．総括（2025 年度の成果）

- 単年度評価の運用を継続し、様式のブリーフ化・事務局支援により作業負担の軽減を進めた。
- 評価項目（15 項目）を 4 軸に統合し、外部評価が判断しやすい枠組み（通知表化）を整備した。
- KPI 導入に向けた設計を進め、次年度以降の数値蓄積・比較可能性を高めた。

7．来期への課題（2026 年度の重点）

・　共通 KPI（最小セット）と中間・総括評価様式の確定

・　単年度評価の文章量制御（記述上限・選択式判断・KPI 番号で根拠提示）とデータ化の徹底

・　Project KPUM 等の新規事業について、対象・コース変更に応じた評価設計の更新と成果発信

担当　滝下幸栄

Ⅲ. 委託事業

１．特定行為研修

本研修は、2019 年度に厚生労働省より看護師特定行為研修指定研修機関の指定を受け、2020 年度に外科術後病棟管理領域コースの研修を開始し、2021 年度には術中麻酔管理領域コースの研修を開始した。さらに、2022 年には、この 2 コースにおいて厚生労働省 教育訓練給付制度 専門実践教育訓練講座の指定を受けることができている。今年度は、2023 年度より開講している集中治療領域コースに 1 期生を迎えることができ、術中麻酔管理領域コースとの 2 領域開催となった。これまでの研修生の累計は、今年度の修了生を含め、外科術後病棟管理領域コースは 10 名、術中麻酔管理領域コースは 16 名、集中治療領域コース 1 名であり、計 27 名の特定行為研修修了看護師を輩出することになる。

Ⅰ．研修生　術中麻酔管理領域コース　５期生　２名
　　集中治療領域コース　　１期生　１名

Ⅱ．年間研修スケジュール

2025 年 4 月 2 日	開講式
～8 月 29 日	・e-ラーニング受講 ・スクーリング（共通科目：6 月、区分別科目：8 月） ・科目修了試験 ・解剖学実習
9 月 10 日	・OSCE 術中麻酔管理領域コース：3 行為　　集中治療領域コース：2　行為
2025 年 10 月 1 日～ 2026 年 1 月 16 日	・臨地実習 術中麻酔管理領域コース：13 行為 集中治療領域コース：13 行為
2026 年 3 月 3 日	特別講義（役割についてのプレゼンおよび実習終了後の手順書の見直し）
	閉講式（PM）

Ⅲ．研修内容について

1.　e-ラーニング

1）　共通科目 192 時間に加え、区分別科目は術中麻酔管理領域コースでは 79 時間、集中治療領域コースでは 76 時間の履修を期日までに修了することができていた。

2）　院内の研修生においては、研修開講前年度から e-ラーニングの視聴ができる様に支援した。その履修内容を申請してもらい、履修免除を行ったことで、研修期間中における履修の負担軽減につながった。院外の研修生においては、開講 1 ケ月前には視聴できるようにした。

2.　スクーリング

1）　１Ｆカンファレンスルームにて、共通・区分別科目すべて対面で行った。

2）　演習の症例検討等においては、研修生に予め事前課題として提示し、講義時間の短縮化と医師の説明時間の充当に努めた。

3）　演習の内容の刷新に伴い、特定行為研修修了生に演習支援を得られるように調整をした。

4）　指導医によるシミュレーション教育ができる様に、シミュレーターを準備し、特定行為における技術的、認知的スキルの向上に努めた。

3.　科目修了試験

1）　共通科目の試験科目は 6 科目であり日程は次ページの表に示す。再試験の該当者はなかった。

2）　今年度より SQUE の科目修了試験管理を活用し、看護学科情報科学実習室等にてすべて Web テストとした。

日程	科目
6 月 25 日	臨床病態生理学、医療安全学/特定行為実践、疾病・臨床病態概論
6 月 26 日	臨床推論、フィジカルアセスメント、臨床薬理学

3）区分別科目は、術中麻酔管理領域コース、集中治療領域コースともに６科目であった。試験日程は以下の表に示す。再試の該当者はなかった。

4）区分別科目おいては、KPUM オリジナルの研修を組み込んでいることから、すべてを Web テストとすることができず、一部従来通りの紙ベースの試験とした。

8月20日（水）					
	2限目 10:10～11:20		3限目 11:30～12:30	4限目 13:20～14:20	5限目 14:30～15:30
術中麻酔管理領域コース	呼吸器（気道確保に係るもの）	術後疼痛管理関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連		
集中治療領域コース	呼吸器（気道確保に係るもの）	循環器関連	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連		
8月21日（木）					
	2限目 10:10～11:１０		3限目 11:20～12:20	4限目 13:20～14:20	5限目 14:30～15:30
術中麻酔管理領域コース	動脈血ガス分析関連		栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	循環動態に係る薬剤投与関連	＊4限目5限目を連続90分の試験とする →13:20～14:50とする
集中治療領域コース	動脈血ガス分析関連		栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	循環動態に係る薬剤投与関連	

4. OSCE

1） 術中麻酔管理領域コース３行為、集中治療領域コース２行為について行った。

2）約３週間の自己研鑽ができるようにスキルスラボの環境を整え、看護部の協力を得て、研修修了生から直接指導を受けられるように調整、リハーサル指導も行ったが、３名のうち２名は再 OSCE を受けることになった。

3）OCSE 当日はシミュレーターの準備に不備が無い様にメーカーの方のサポートを得て、トラブルに備え、待機をしてもらった。

5） 臨地実習

1） 研修生 3 名分の電カル PC の手配、記録用の PC の貸し出し、プリンターの物品準備、記録物の提出等の実習環境を整備した。

2） 麻酔科指導医と事前打ち合わせを行い、実習のサポート体制を整えた。

3） スキルの研鑽ができるように、10 月中はカンファレンスルームにシミュレーターを設置した。

4） 実習時間については、8 時間を超えて実習しているケースは無かった。最も遅くなったのは 18 時で ICU での「人工呼吸器からの離脱」であった。

5） 同意取得は研修生主体としたが、特に問題なく行えた。1 名のみ拒否されたが研修生側の要因ではなかった。

6） リスク管理においては、侵襲を伴う特定行為に関わった場合、研修生はオリエンテーションに基づき、実施後数時間後、さらに翌日も異常がないこと自主的に確認していた。トラブルは無かった。

7） 実習におけるオプションとして、手術室麻酔器の説明（研修医の説明時に参加）の機会を設けた。NST カンファレンス・ラウンド、ME ラウンドにおいてはニーズがなかったため実施せず。POPS のラウンドの参加においては医師の指示もあり、症例に関わる前と実習終了後に参加し研修生自身の変化を認識できる様に図った。

8）症例習得に要した期間は、術中麻酔管理領域コースは 3 か月余り、集中治療領域コースも同様であった。

・実習開始前に行っていた指導医への挨拶は、実習時に研修生が個々に行う方向とし実施しなかったが、特に問題な無かった。

・症例は 5 症例で概ね修了できたが、スキル研鑽の目的にて、動脈ライン確保においては 10 症例、中心静脈カテーテルの抜去では 9 症例、一時ペースメーカーの操作および管理では 1 症例追加となった。いずれも、医師からの評価が合格に満たなかったわけではないが、研修生が、指導医の助言・指導が無くても、実施できる「A」評価には達していないと自己内省をし

たため、指導医に協力を得ながら実施した。

・NPPV の症例においては、対象症例が少なくカルテからの振り返り症例も症例数にカウントした。職場復帰のこともあり待機期間を設定し、結果的に 7 症例修得しそのうち 3 症例は振り返り症例となった。

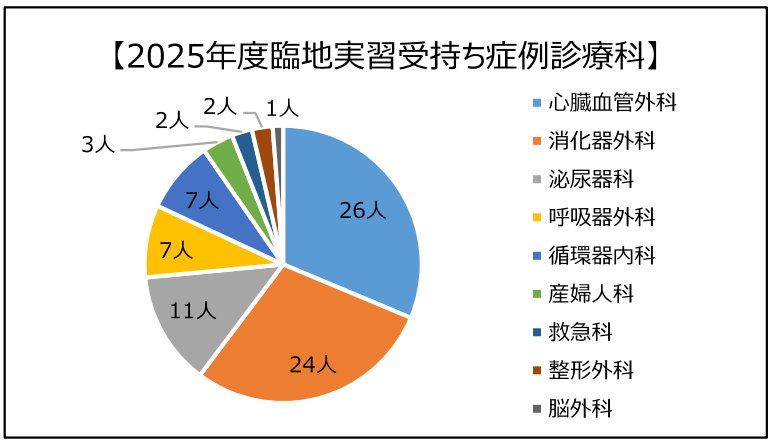
① 実習場所

コース	術中麻酔管理領域	集中治療領域
特定行為	6 区分 13 行為	6 区分 13 行為
実習場所	中央手術部 消化器センター 循環器センター 救急外来	中央手術部 ICU 循環器センター・CCU EICU

② 対象症例

症例は延べ数で 83 名であり、男性は 46 名、女性 37 名、年齢は 27 歳から 91 歳であった。年齢中央値は 76 歳であった。27 歳の疾患は僧帽弁閉鎖不全であり、91 歳も同疾患であった。

1 症例に 2 名の研修生が関わったのは 6 症例であったが、手術中・手術後と関わりのタイミングは同時期ではなかった。



Ⅳ. 研修のアンケート結果

1. 授業・教材・実習についての尺度による評価

16 項目について尺度 1～9 段階で評価を実施した。e-ラーニングについては教材評価、スクーリングについては授業・教材評価、OSCE については授業評価、臨地実習に関しては実習評価となる。3 名の平均値を明示した。結果は、スクーリングと臨地実習ではポジティブ印象が高い傾向であったが、e-ラーニングでは低い傾向にあった。

項目	ネガティブ印象	非常に	どちらとも言えない	非常に	ポジティブ印象	e-learning	スクーリング	OSCE	臨地実習
1)	つまらなかった	1 ・・・	5 ・・・	9	面白かった	7.3	8.3	7	8.3
2)	眠くなった	1 ・・・	5 ・・・	9	眠くならなかった	5.3	9	9	8.3
3)	好奇心をそそられなかった	1 ・・・	5 ・・・	9	好奇心をそそられた	7	8.6	7.3	8.3
4)	マンネリだった	1 ・・・	5 ・・・	9	変化に富んでいた	4.6	9	7.3	8.3
5)	やりがいがなかった	1 ・・・	5 ・・・	9	やりがいがあった	7	8.3	7.6	8.3
6)	自分には無関係だった	1 ・・・	5 ・・・	9	自分に関係があった	7.6	9	8.3	9
7)	どうでもいい内容だった	1 ・・・	5 ・・・	9	身に着けたい内容だった	7.6	9	8.6	9
8)	途中の過程が楽しくなかった	1 ・・・	5 ・・・	9	途中の過程が楽しかった	6	7	6.3	7
9)	自信がつかなかった	1 ・・・	5 ・・・	9	自信がついた	6.6	6.6	6.3	8.6
10)	目標が曖昧だった	1 ・・・	5 ・・・	9	目標がはっきりしていた	6.6	8	7.6	9
11)	学習を着実に進められなかった	1 ・・・	5 ・・・	9	学習を着実に進められた	7.6	8	7.6	7.6
12)	自分なりの工夫ができなかった	1 ・・・	5 ・・・	9	自分なりの工夫ができた	5.6	7	7.3	9
13)	不満が残った	1 ・・・	5 ・・・	9	やって良かった	7	8.6	7	7.6
14)	すぐに使えそうもない	1 ・・・	5 ・・・	9	すぐに使えそうだ	7	7.6	7	7.3
15)	できても認めてもらえなかった	1 ・・・	5 ・・・	9	できたら認めてもらえた	6.6	7.6	7.6	9
16)	評価に一貫性がなかった	1 ・・・	5 ・・・	9	評価に一貫性があった	6	7.3	6.3	8.6

2.受講上の評価：　受講上の評価を 4 段階にて行った。

1）e-ラーニングを受講することにおいて、時間の確保では、「できた」「まずまずできた」と回答し、環境面の問題については、「なかった」「あまりなかった」と回答していた。

2）スクーリングにおいて、時間及び場所の適切性では、「まずまず適切であった」「適切であった」と回答していた。

3）OSCE において、運営及び環境の適切性では、「適切であった」「まずまず適切であった」と回答していた。

4）臨地実習において、時間設定及ぶ学習環境の適切性では「適切であった」「まずまず適切であった」と回答していた。

3．受講上の感想

1）e-ラーニングについて

・ほとんど同じ内容の動画があり気になった。・研修期間よりかなり前に受講するように言われ記憶が定着しにくかった。
・受講自体は 1 か月ほどだが復習する時間がなく知識を詰め込んだ形になり残念

2）スクーリングについて

・事前課題という形で先に課題配布があり、しっかり考えてから授業に臨めてよかった。曖昧にしていたことをきちんと考えるよい機会となった。授業は楽しかった。
・事前課題が多く e-learning に時間を割きにくかった。・事前課題に取り組む期間を別に設定してほしかった。
・動画を事前に視聴し Dr.が補足、+αで教えてくれる授業がおもしろい。
・授業中はメモを取ることに追われ、しっかり聞けないこともあるので動画の解説 PDF を配布してほしかった。
・講義内容に合った Dr.に授業を担当していただきたかった（ペースメーカーは循環器内科、NPPV は ICU など）
・放射線の内容は再考してほしい。
・特定行為に直接結びつく内容が多くよかった。
・レポートを直前に言われることが多く早くいってもらいたかった。

3）OSCE について

・緊張して頭が真っ白になったが練習で体が覚えており進めることができた。
・自分自身に少し自信を持つことができた。
・事前に作ったシナリオをチェックしてもらい、その手順でしたが不合格になった。評価を受けた時点で教えてもらっていたら結果も変わっていたと思う。
・OSCE のあと 2 週間働いた期間に実習の準備として e-learning の復習などできるようにスケジュールを詳しく看護部に伝えてほしかった。
・OSCE では大丈夫！と言わないでほしいと思った。・不合格になったことで学べたこともあった。
・A 穿刺は鼠経ですることが多いのに、橈骨でないといけない。
・見えないエコーの使用は意味がない。・技術の指導をもっと増やしてほしかった。
・必要物品で、不要なものを持ってこなかったのに×された。
・経口挿管ではマギール鉗子は使いませんし、麻酔器回路に問題なければ BVM がなくても換気はできると思った。

4）　臨地実習に関して

・各実習はとても自分自身にとって良い学びとなった。
・一症例の始めから終わりまで麻酔にかかわる「統合実習」の様な実習があれば実際の業務をイメージしやすいのかなと思った。
・OSCE 終了後、すぐに実習を始めたかった。
・実習の説明が口頭のみでややこしく覚えられない。
・担当 Dr.と直接メールでやり取りしたかった。キャリアセンターが中途半端にかかわり余計にややこしい。
・OP 場のことがわかる人がサポートに入ってほしい。
・A ライン・CV の手技について 1 5 症例程度、納得いくまで経験できてよかった。5 症例では自信をもって実践するのは難しい。
・最初は Dr.との連絡をどのように取り進めていけばいいのか分かりづらかった。
・記録の書き方見本を提示いただき助かった。

Ⅴ．次年度に向けた課題

1．　環境面について

・　手狭ではあるが、カンファレンスルームでスクーリングができる様に準備をしていく。

・　ネット環境は整備できたため、電子黒板等などの利用にて学習を充実させる。

・　研修生のサポートの強化を図るために、看護部の協力を得、修了生によるメンターシップをシステムに組み入れる。

2．　学習内容について

・　e-ラーニングにおいては、次年度に向けて 2.3 月ごろから取り組めるように準備と説明を行う。

・　スクーリングの事前課題を漏れることなく早めに渡し、学習が効果的にできる様にする。

・　学習指導と OSCE 評価者、実習指導、評価の医師の統一化を図るように調整を行う。

3．　実習内容について

・　実習要項については理解が十分にできるように詳細に説明する時間を設ける。

・　術中麻酔においては、実習指導体制等について、次年度も麻酔科指導医と事前打ち合わせを行い、かつ、特定行為研修修了生が実習指導に係われるような体制を構築していく。

・　症例カンファレンス形式を取り入れ、研修生全員でディスカッションを行い、症例や特定行為を共有していく。

・　実習での関わりを看護師特定行為研修セミナーで発表できるように意図して指導をする。

Ⅵ．修了生フォローアップ研修＆研修特定行為研修セミナー

1．　修了生フォローアップ研修について

・開催時期を 8 月頃としている修了生フォローアップ研修は、研修修了生が特定行為のスキルの研鑽を行う事や、今年度の研修生と交流をしながら OSCE の指導ができる様にするという目的があるが、今年度も研修生が少なかったこともあり、開催は見送った。

・次年度もフォローアップ研修を見送るのか検討を要する。研修の在り方を、これまでの研修修了生との交流をメインの研修を企画し、つながり合うことで特定行為に対するモチベーションの維持向上を目指すとともに、現研修生にとっても未来像が描けるような機会としていく。

2．　特定行為研修セミナー

・京都府立医科大学で行っている特定行為研修について現況報告し、周知を図ることと、特定行為研修を修了した看護師の院内活動の実態や看護師を支援していく方策を病院間で共有し、特定行為研修制度を臨床現場に定着させる目的にて、特定行為研修に興味のある看護師・管理者ならびに修了看護師のいる施設の管理者を対象としてセミナーを開催した。

・今年度も、昨年度に引き続き、現研修生の実習での取り組みについて報告する企画とした。

1）開催日時：2026 年 2 月 13 日（金）16：00～18：30

2）会場：京都府立医科大学附属図書館ラーニングコモンズ　Koto Square

3）方法：ハイブリッド形式（現地参加+オンライン配信：Zoom）で開催

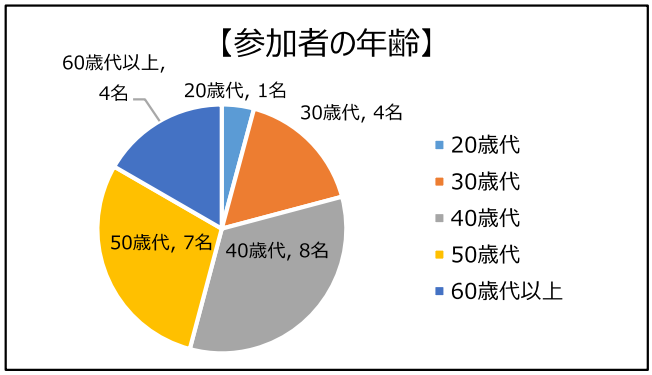
4）内容

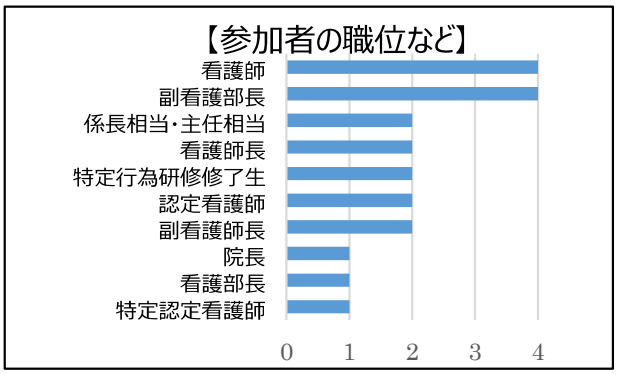
開会挨拶　　京都府立医科大学附属病院　病院長 佐和　貞治
第 1 部 『講　演』 「麻酔科領域における特定行為研修修了者の活躍」 滋賀医科大学麻酔科　講師　今宿　康彦　氏

第 2 部 『特定行為看護師修了生による活動報告及び実践状況』	
＜外科術後病棟管理領域コース＞	京都大学医学部附属病院　松山　愛　氏
『特定行為研修研修生による研修症例報告』	
＜術中麻酔管理領域コース＞	京都第一赤十字病院　齋藤　純也　氏
	京都府立医科大学附属病院　山田　亜希子　氏
＜集中治療領域コース　＞	京都府立医科大学附属病院　平山　友紀　氏
閉会挨拶　京都府病院協会会長　水野　敏樹	

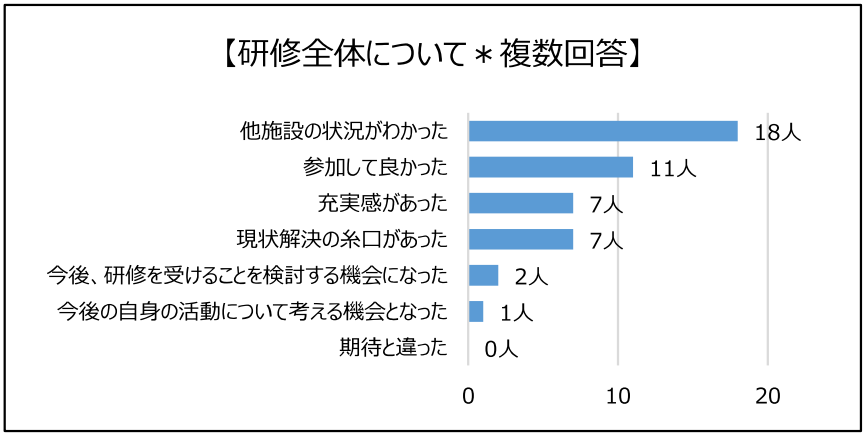
5）結果（アンケート）

・参加者数は会場参加者 11 名（セミナー関係者 14 名は除く）Web 参加者 27 名、計 38 名であった。アンケート回収率 63%であった。回答者の職位等や年齢は下の表の通りであった。セミナー全体の運営に関しては約 90%が「良かった」と評価していた。第一部の講演の音声が小さかったことから、聞き逃したとの意見があった。





・セミナーの内容に関しては、第一部は 100%、第二部においては約 90%がテーマに関心があったと回答していた。第一部に対するコメントでは「特定行為看護師の役割について再度確認できた」「今後自身が受講するためどのような場面で修了者看護師が活躍しているか具体的にわかった」などの記載があり、第二部に対しては「特定行為研修においてどのような学びがあったのかを知ることができ、またその学びを組織でどのように活用すべきかをあらためて考えることができた」「実際にどのような事例に関心を持ち、どのようにアプローチされているのか現場がしれてよかった」などの記載があった。左のグラフの研修全体についての評価から、研修施設が実際について発表できる場として、次年度以降も看護師特定行為研修セミナーを継続していくことは必要であると言える。



Ⅶ. 次年度の研修予定

2026 年度生の選考試験を 2025 年 9 月 5 日に行い、術中麻酔管理領域コース 6 期生 3 名が研修予定である。研修生の人数も少ないが、その分、これまでの研修を振り返りながら、今後の研修のあり方として、臨地実習の自施設での実施など検討をしていく。

報告者　京都府立医科大学医学部看護学科　看護実践キャリア開発センター　越智幾世

2．スキルスラボ

本学、医師、看護師等の学習を支援する場として、スキルスラボが有効かつ適正に使用できるよう、教育支援課より委託業務として担当している。

1．活動目標

① スキルスラボ内の整備
② 予約システムの円滑な管理
③ シミュレーター及び備品管理

2．成果

1）利用実績

① スキルスラボの利用件数はのべ 400 件(2026/3/3 現在)であり（表１）、その内訳は授業での利用が 239 件と最も多かった。
② 利用職種は、医学科学生 1499 名、看護師 836 名、次いで医師･歯科医師 505（学外 45）名の順であった。（表 2）
③ 学外使用者はハンズオンセミナー等のスキルスラボを使用してのイベント参加者が多かった。
④ 目的外利用の内訳は、面接や採用試験等であった。今年度、健康診断での使用はなかった。
⑤ シミュレーター等の貸し出し頻度については、動脈採血シミュレーターが最も多かった。（表 3）
⑥ スキルスラボ使用報告書の回収率は 60%と低い現状にある。

2）スキルスラボの整備について

不要な物品や在庫などは廃することで、スキルスラボ内を整理整頓し、教育活動が行いやすい場所と動線を確保した。

表１　目的別利用件数

使用目的	件数
授業	239
研修	79
セミナー	14
自己学習	10
特定行為研修	9
目的外使用（面接等）	49
合計	400

表２ スキルスラボ職種別利用者数（学外）

使用者数（職種）	人数
学生：医学科	1499
看護師	836
医師･歯科医師	505(外45)
特定行為	174
ProjectKPUM研修生	167
学生：看護院生	18
看護学科教員	16
臨床検査技師	4
臨床工学技師	3
薬剤師	1
その他（オープンキャンパス等）	128(外45)
合計	3351

表３ シミュレーター貸出件数上位 10 件

シミュレーター名	件数
動脈採血シミュレータ	165
IPエコー	70
鼠径動静脈穿刺シミュレータ	60
VIMEDIX 心・腹超音波シミュレータ	54
レサシアン ファーストエイド（旧）	51
シンジョーⅡ 採血静注シミュレータ	32
SimMan	27
気道管理トレーナ	21
DAMシミュレーター	16
AEDトレーナ2	14

3. 今年度の評価と課題

他部門との協議により目的外の使用は減少し、全体として効率的な運営が可能となった。一方で、採血シミュレーターをはじめとする使用頻度の高いシミュレーターについては、消耗品交換を含む日常的な整備や故障対応が必要な状況である。
また、予約外での物品使用やシミュレーターの不適切な取扱いが散見され、故障の一因となることから課題と考える。しかし、管理者が常駐できない現状では管理に限界があり、使用後の報告書についても未提出が多い。これらの状況を踏まえ、教育資源としてシミュレーターを適正に活用するため、今後も適正使用に関する注意喚起を継続していく。
引き続き、利用者がより使用しやすい環境を整えるため、整理整頓および運営体制の検討が必要と考える。

報告者：看護実践キャリア開発センター　道籏充恵

発行：京都府公立大学法人　京都府立医科大学　看護実践キャリア開発センター

〒602-8566　京都府京都市上京区河原町通り広小路上る梶井町 465
E mail　careinfo@koto.kpu-m.ac.jp
URL　https://www.kpu-m.ac.jp/j/cdcn/